

**平成30年度「情報サービス産業における
アジャイル開発に関するエンジニアへの調査」
(5月版)**

JISAアジャイルコミュニティ

- はじめに
 - アジャイルコミュニティよりご挨拶
- 結果報告編
 - I 所属企業および業務について
 - II 現在導入している（ソフトウェア開発の一部または全体）
 - III 以前導入したが、現在は適用していない
 - IV これまで導入したことはない、分からない

本資料は、2018年11月19日～2018年12月28日にJISAアジャイルコミュニティが実施したアンケート調査「情報サービス産業におけるアジャイル開発に関するエンジニアへの調査」の結果です。JISA会員におけるアジャイル開発の現状及び課題の参考資料となるよう、回答者に公開いたします。

調査にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。ここに重ねてお礼申し上げます。

2019年4月

一般社団法人 情報サービス産業協会
アジャイルコミュニティ

アジャイルコミュニティよりご挨拶

この度は、調査にご協力をいただきありがとうございました。

アジャイルに関心を持つ人が集まるイベントや調査はいろいろありますが、JISA会員である私たちに着目したイベントや調査はこれまでありませんでした。

そこで、アジャイルコミュニティでは、JISA会員の皆様が今どんな状況なのか、どのような事で困っているのか、何を解決したいと思っているのか等、まずはその実態を知ること、アジャイルに関して一歩を踏み出す手掛かりを得たいと考え、平成28年度より本調査を実施させていただいております。

今回、平成29年度の調査結果を簡単にまとめお送りさせていただきました。ご参考いただければ幸いです。また、ご回答をいただいた関係者の方々を対象に「これから始めるアジャイル」をテーマに、プロダクトオーナーの取り組みに関する講演と、導入の課題などについて話し合うイベントを開催いたします。是非ご出席をいただければ幸いに存じます。

アジャイルコミュニティでは、アジャイルの普及、推進に向けて、本調査を継続的に実施し、調査結果の分析や、そこから見えてくるテーマをコミュニティ活動に反映していきたいと考えております。

アンケート調査にご協力いただいた皆さま、ならびに、アンケート作成にご協力頂いた 一般社団法人 PMI日本支部 様、ありがとうございました。ここに重ねてお礼申し上げます。どうぞ今後ともよろしく願います。

2019年4月

一般社団法人 情報サービス産業協会

アジャイルコミュニティ

結果報告編

- 目的

- ビジネスの進展スピードが高速化し、ITベンダーには限られた期間で迅速にビジネス価値が高いシステムを導入することが求められており、開発途中での仕様変更・追加が柔軟に行える、**ウォーターフォール型以外の新しい開発プロセス**への期待が高まっております。
- 当コミュニティでJISA会員企業におけるアジャイル開発の現状と課題を把握し、**アジャイルの普及、推進**を目指します。

- **調査対象**

- **JISA正会員企業**のエンジニア

- プロジェクトマネージャ、プロジェクトリーダー、チームリーダーのほか、システムエンジニア、プログラマの方を対象。

- 技術者「個人」に対する調査

- **回答数**

- 333人（36社）

- **調査方法**
 - Webでのインターネット調査
- **調査実施期間**
 - 2018年11月19日～2018年12月28日
- **主催**
 - JISAアジャイルコミュニティ

- **調査内容**
 - 回答者の属性
 - **アジャイル開発手法の導入状況**
 - **導入済みで継続して適用中のグループ**
【継続中】 へのアジャイルの評価・課題
 - **以前導入したが現在は適用していないグループ**
【やめた】 へのアジャイルの評価・撤回理由
 - **これまで導入したことがないグループ**
【未導入/分からない】 へのアジャイルへ期待・未導入理由

I 所属企業および業務について

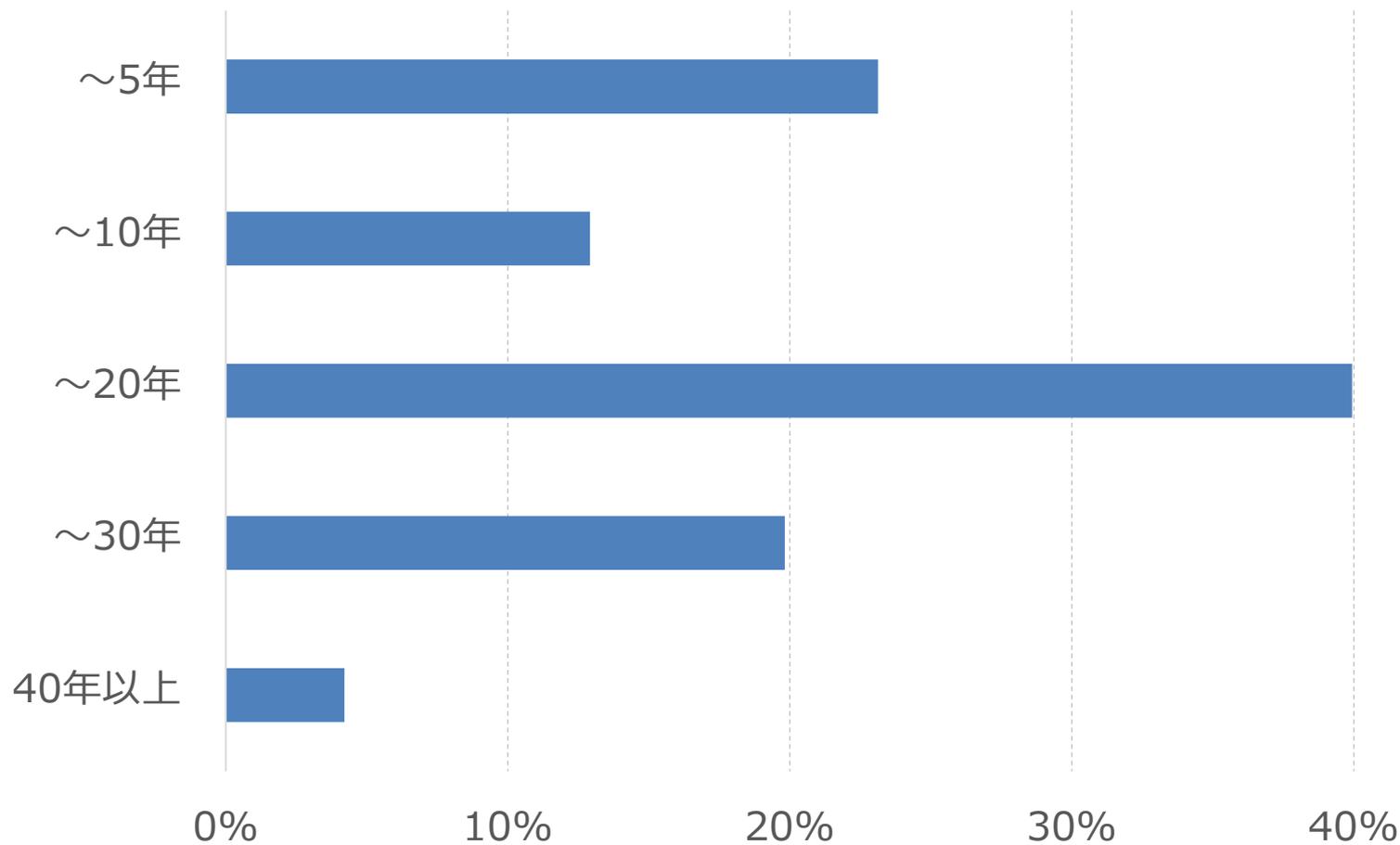
凡例

複 複数回答の質問

初 今年から始めた質問

【I-1】 勤続年数

複 初

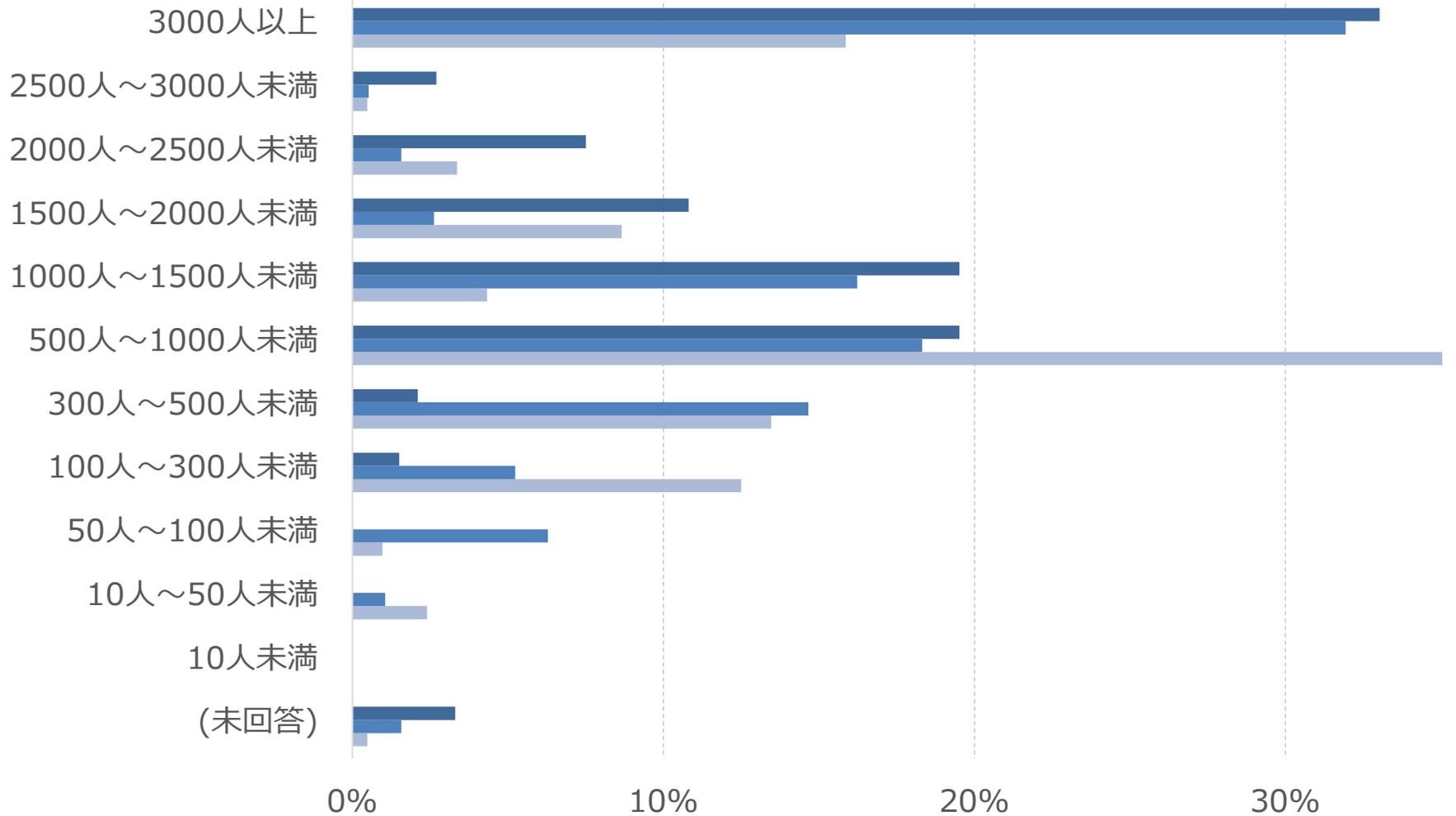


【I-2】 従業員数

複 初

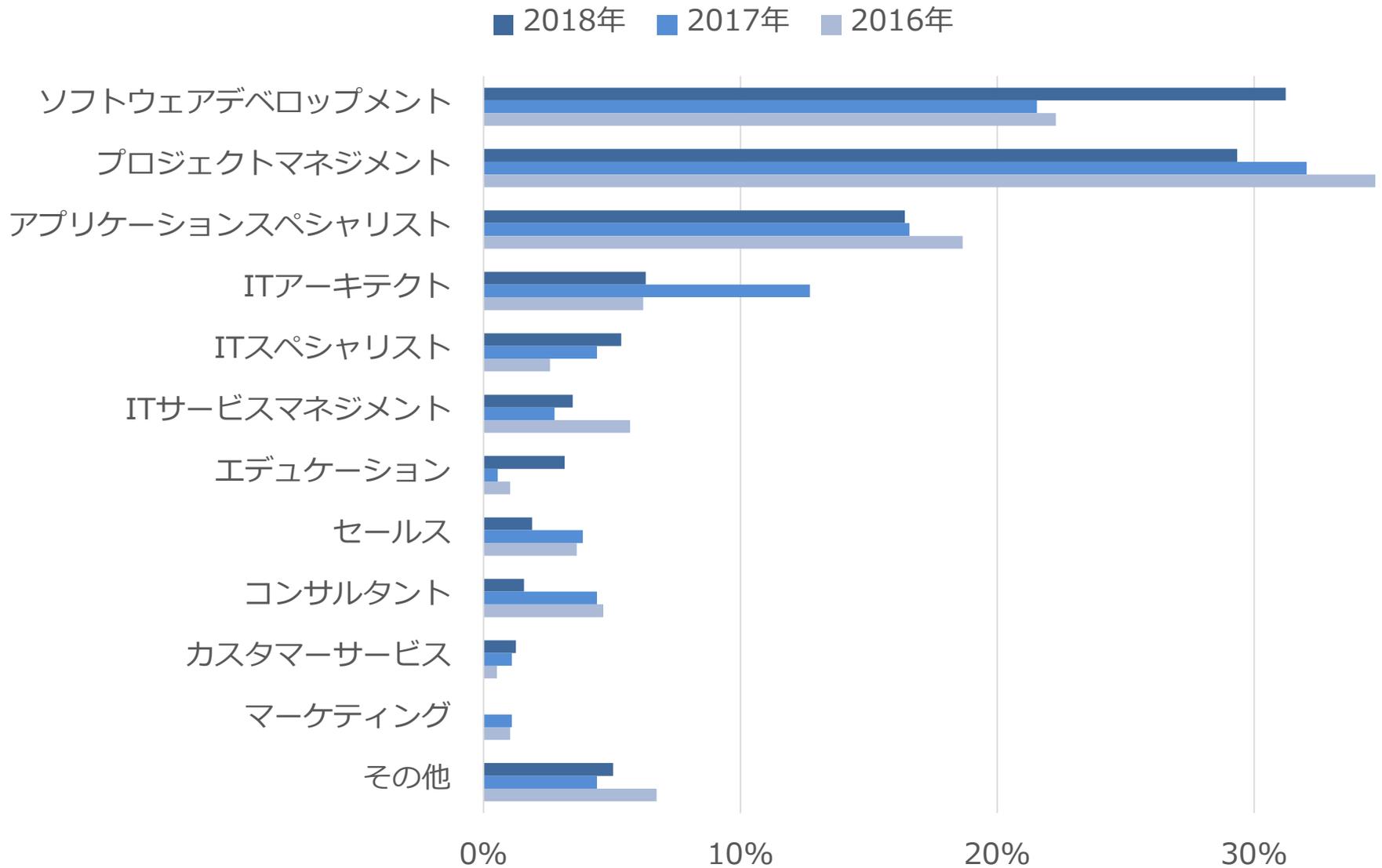


■ 2018年 ■ 2017年 ■ 2016年



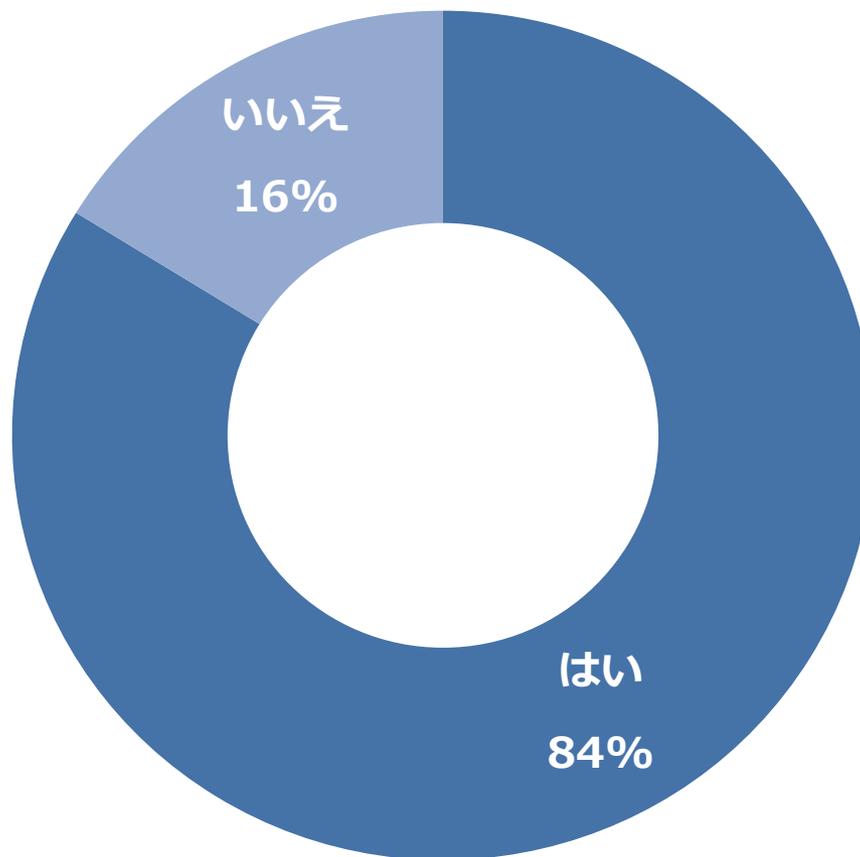
【I-3】 担当職種

複 初



【 I ー4】 現在の業務はソフトウェア開発に関係していますか

複 初

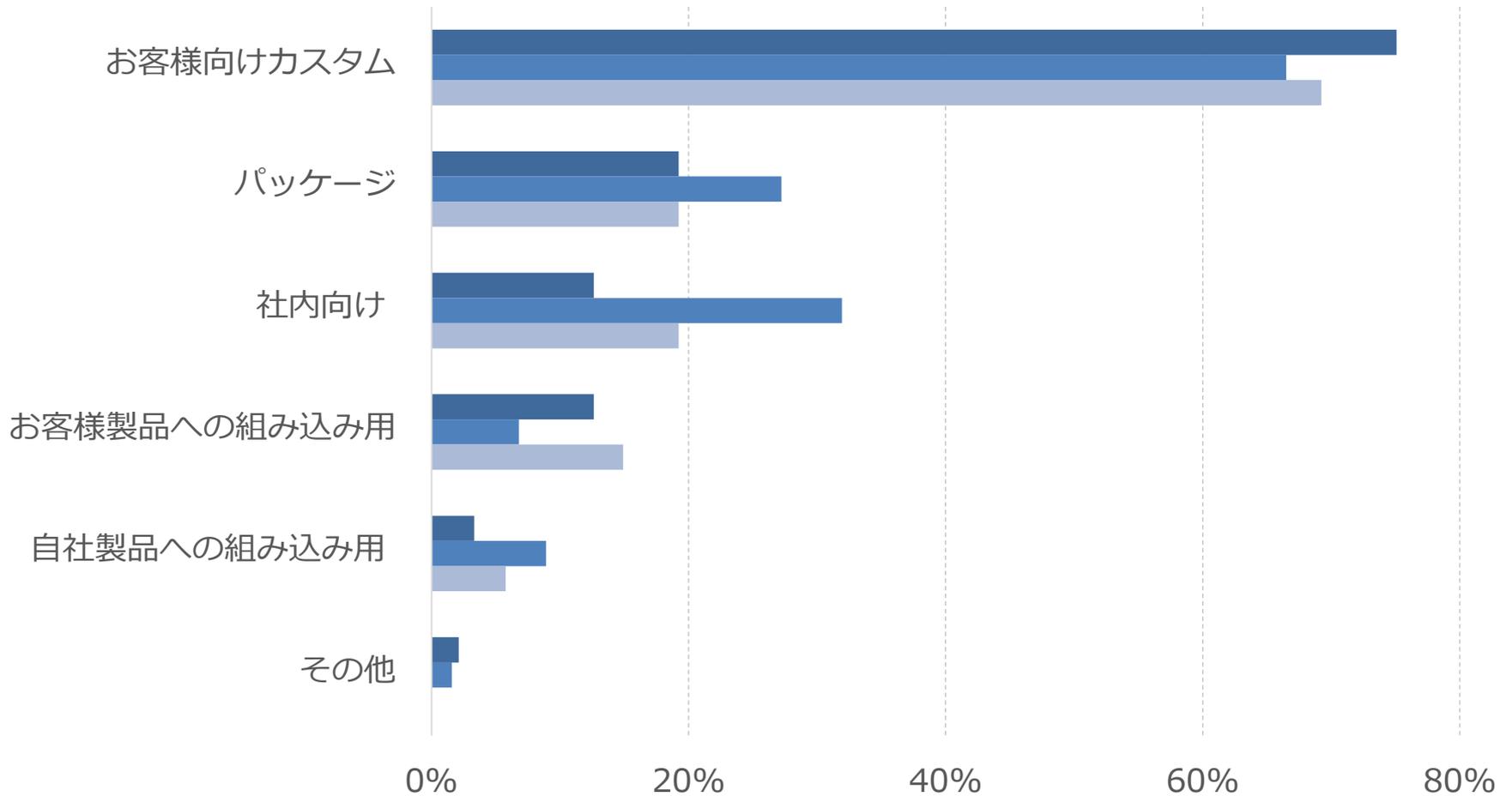


【I-5】 開発対象

複 初

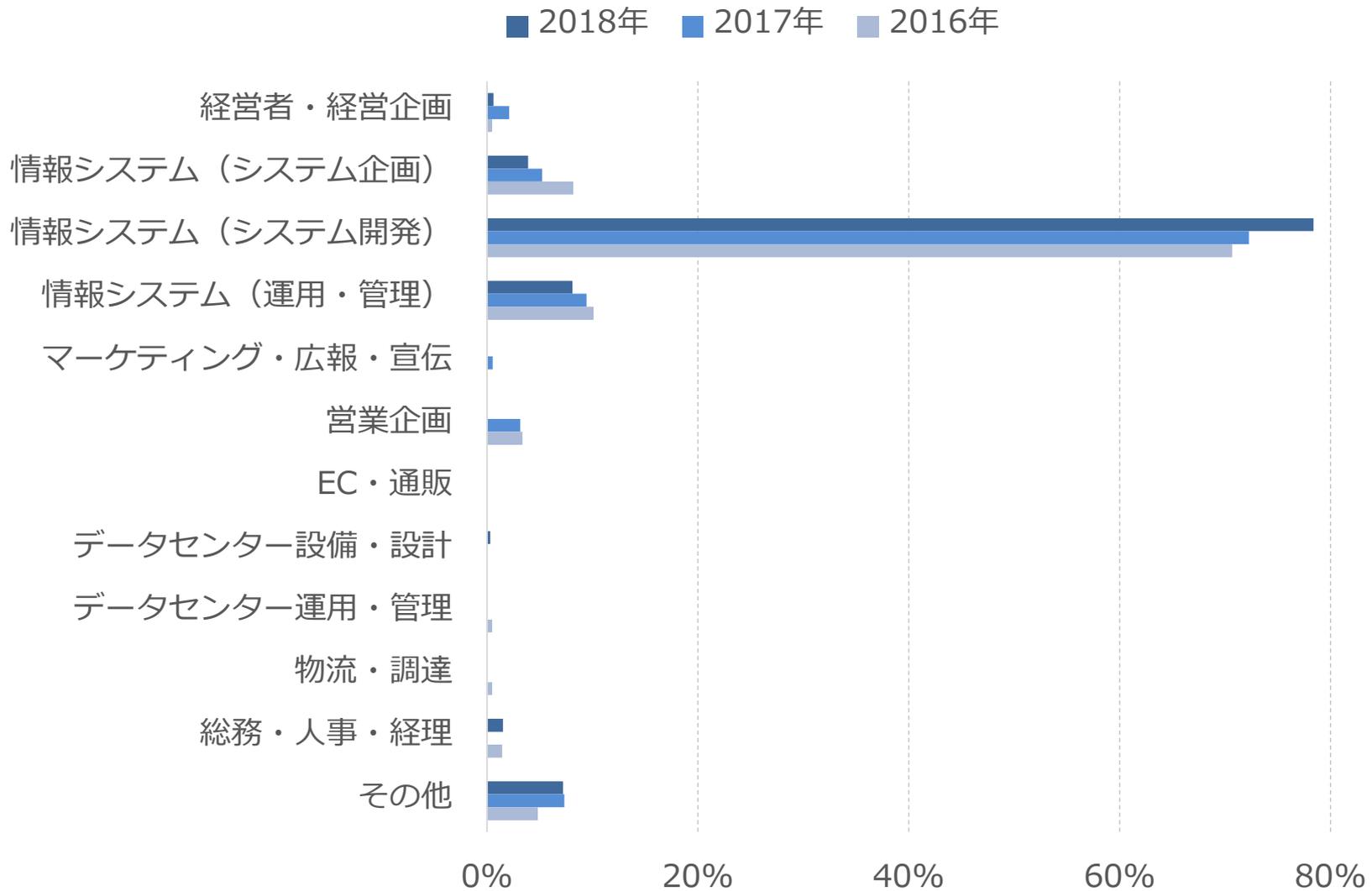


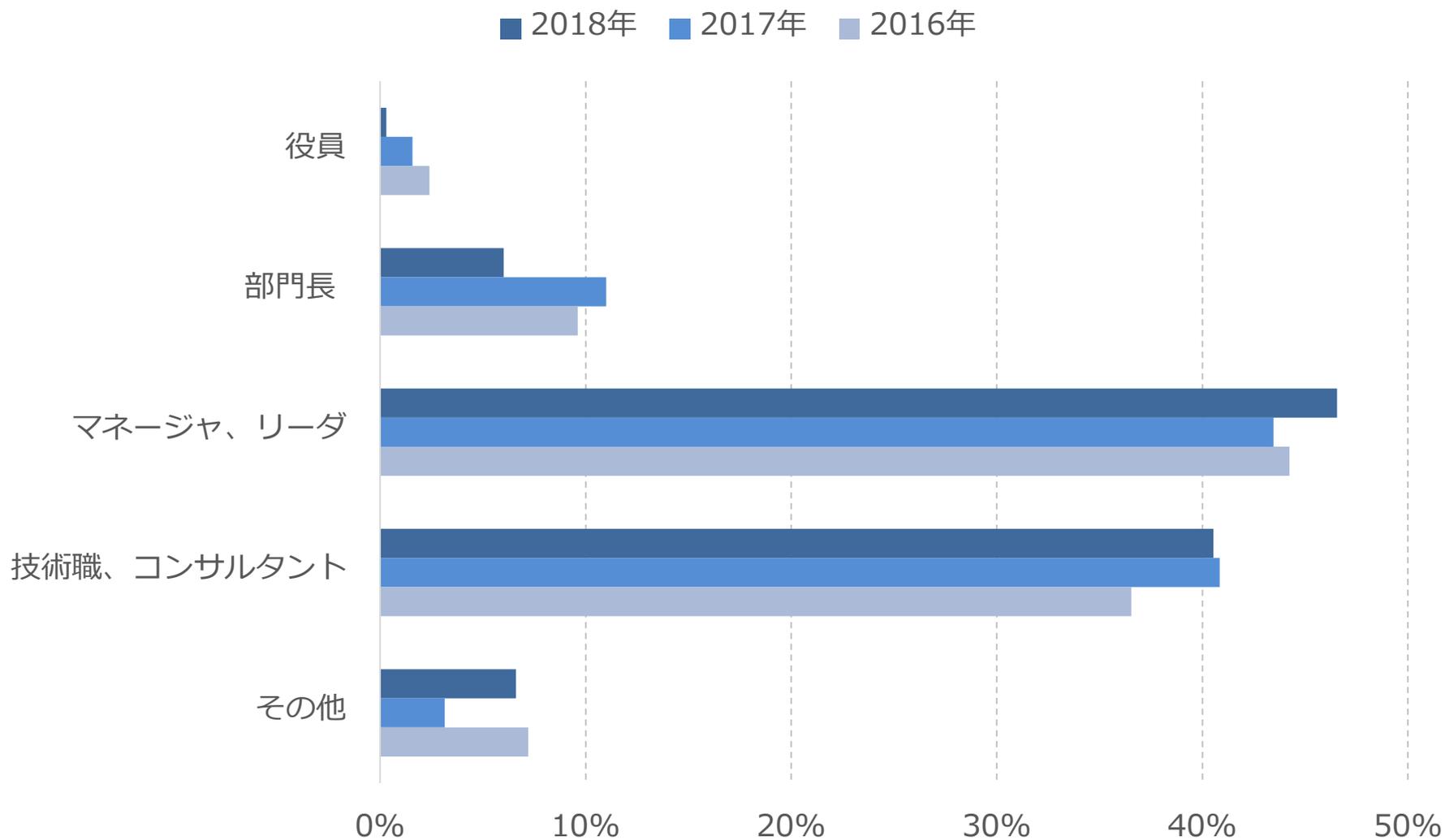
■ 2018年 ■ 2017年 ■ 2016年



【I-6】業務上の立場

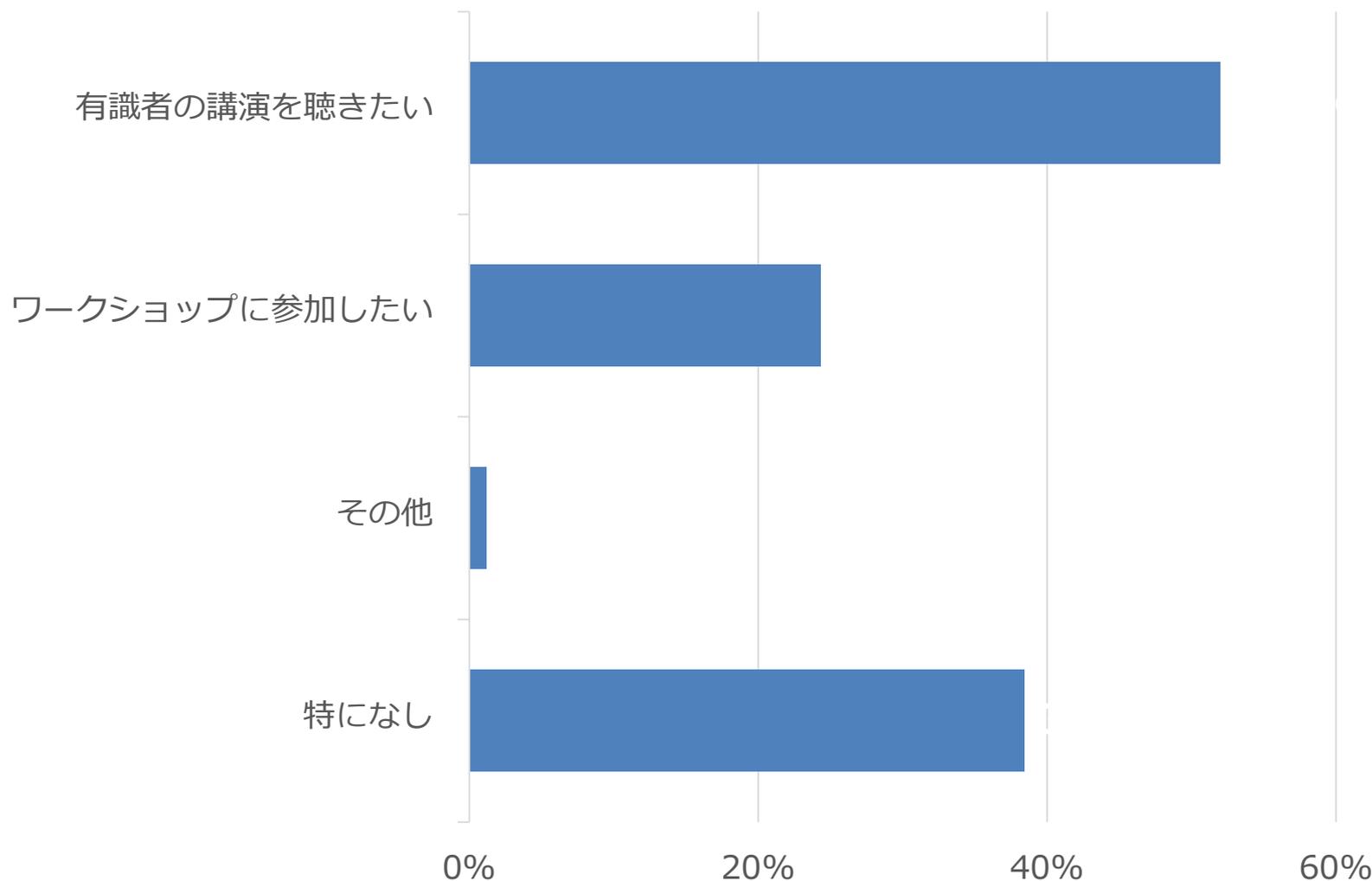
複 初





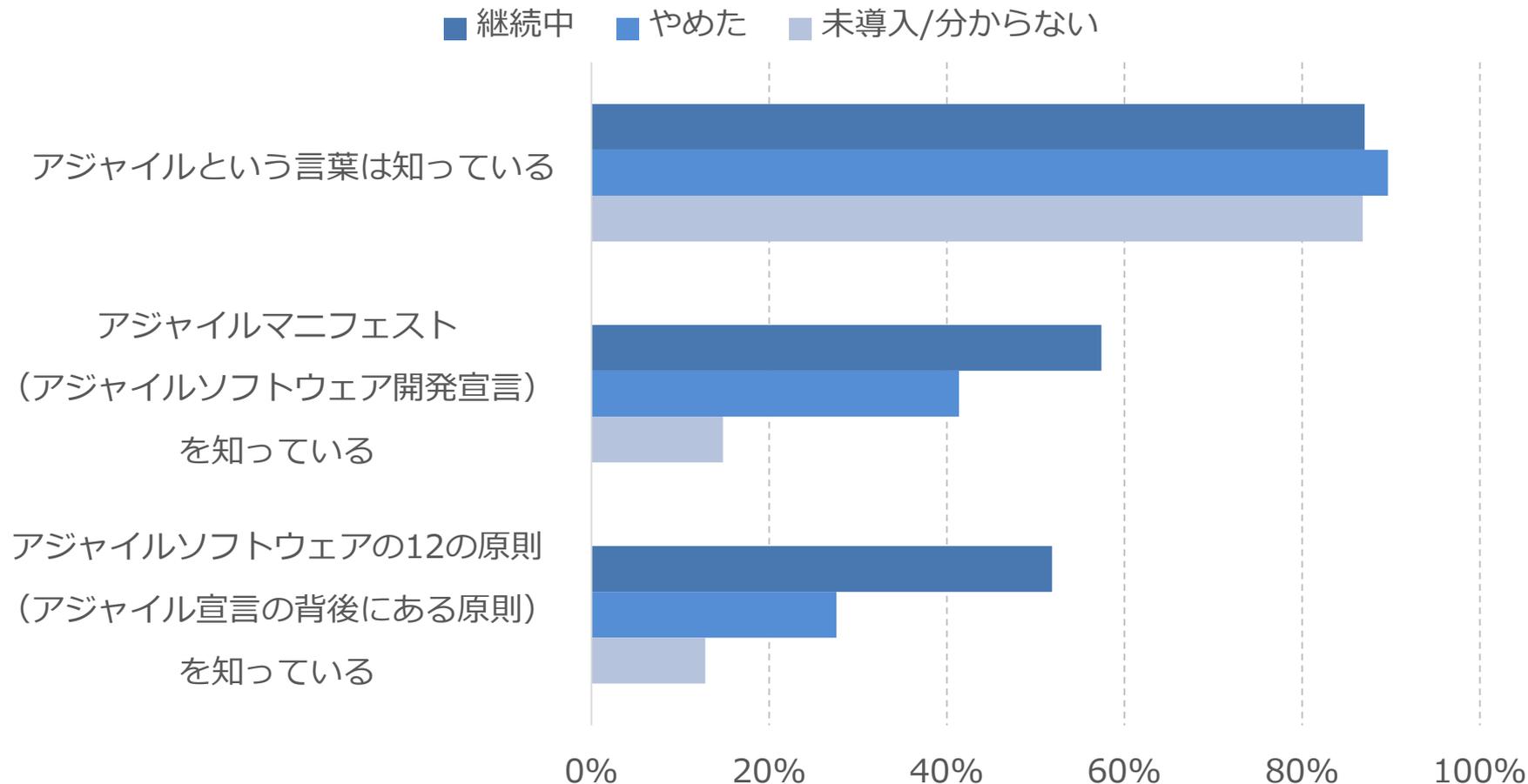
【I-8】アジャイルに関するイベント

複 初



【I-9】 アジャイル開発に関する用語

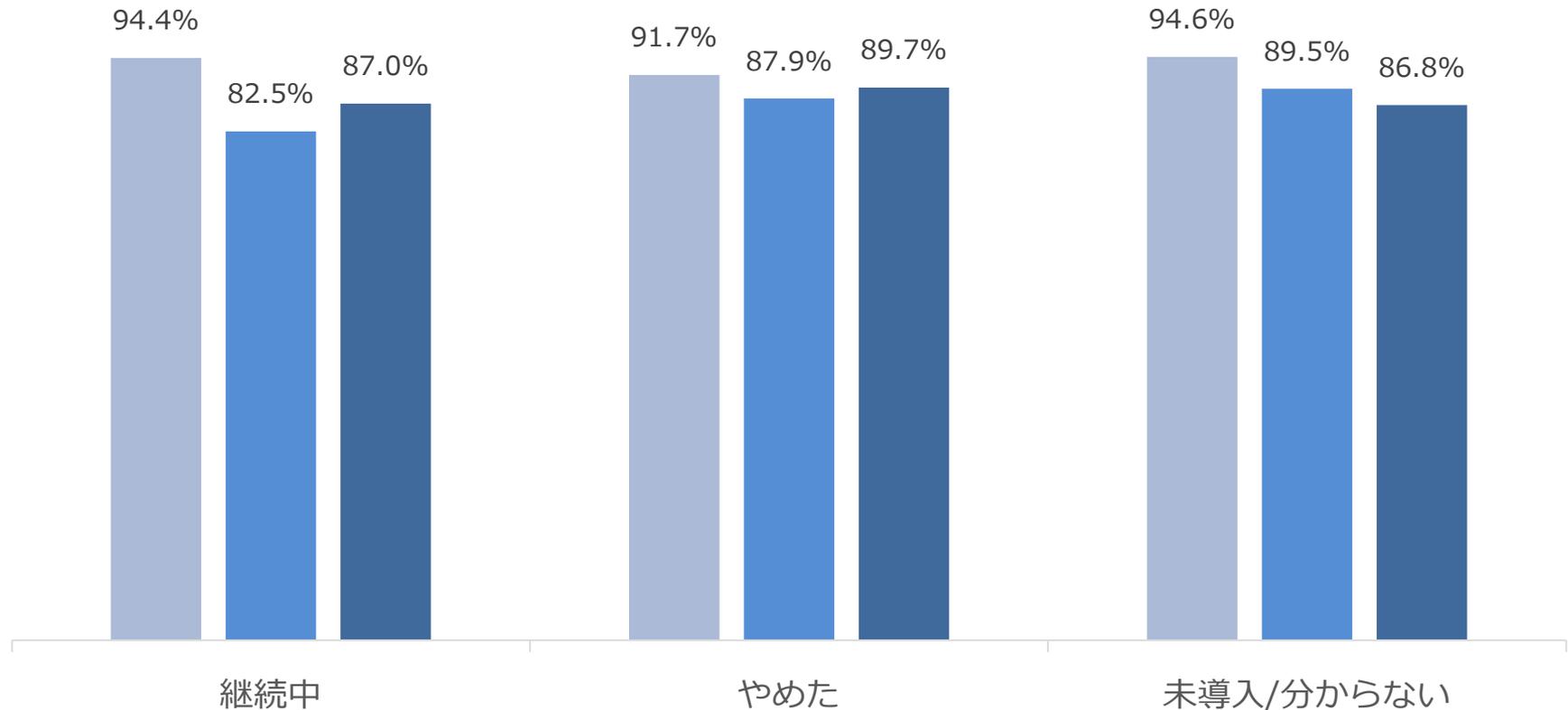
複 初



【I-9】アジャイル開発に関する用語（経年変化）

アジャイルという言葉は知っている

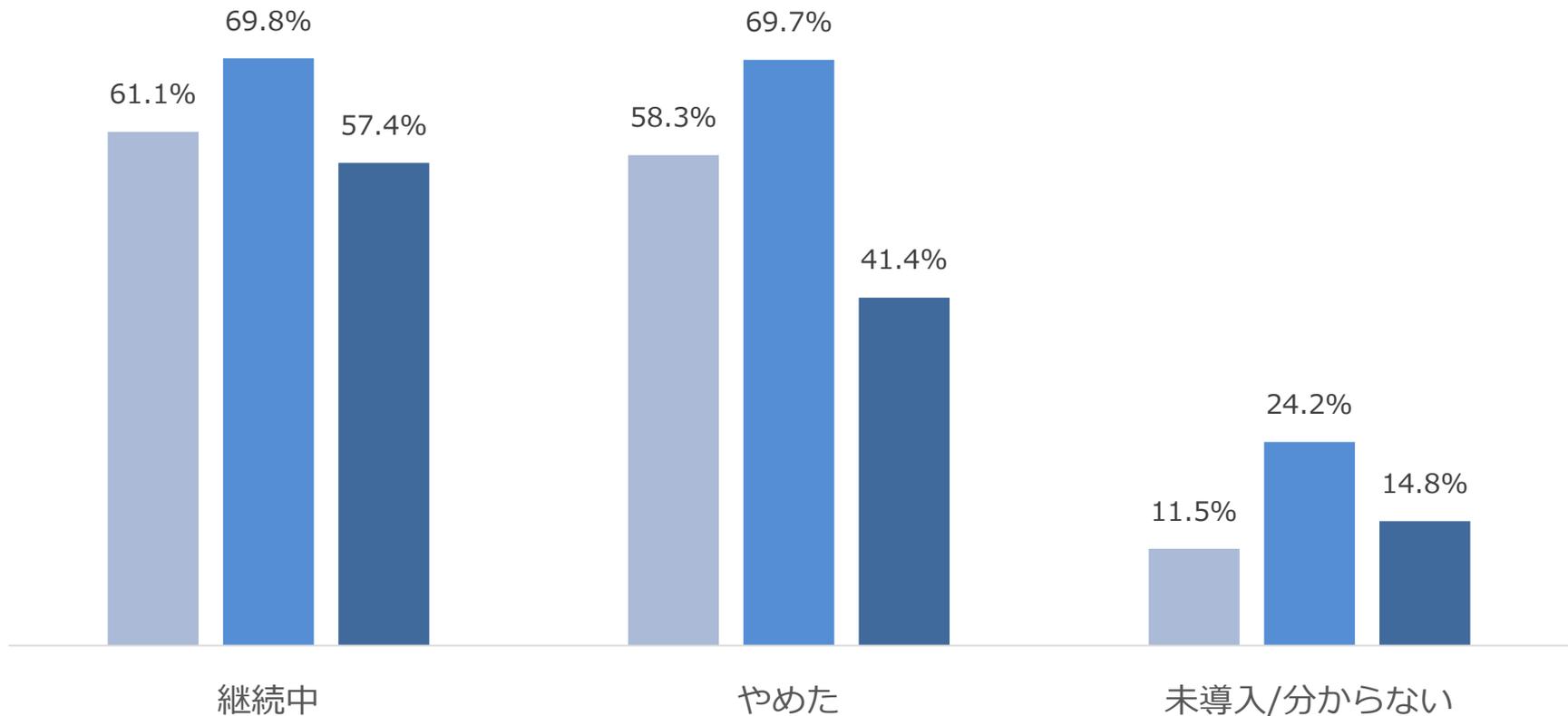
■ 2016年 ■ 2017年 ■ 2018年



【I-9】アジャイル開発に関する用語（経年変化）

アジャイルマニフェストを知っている

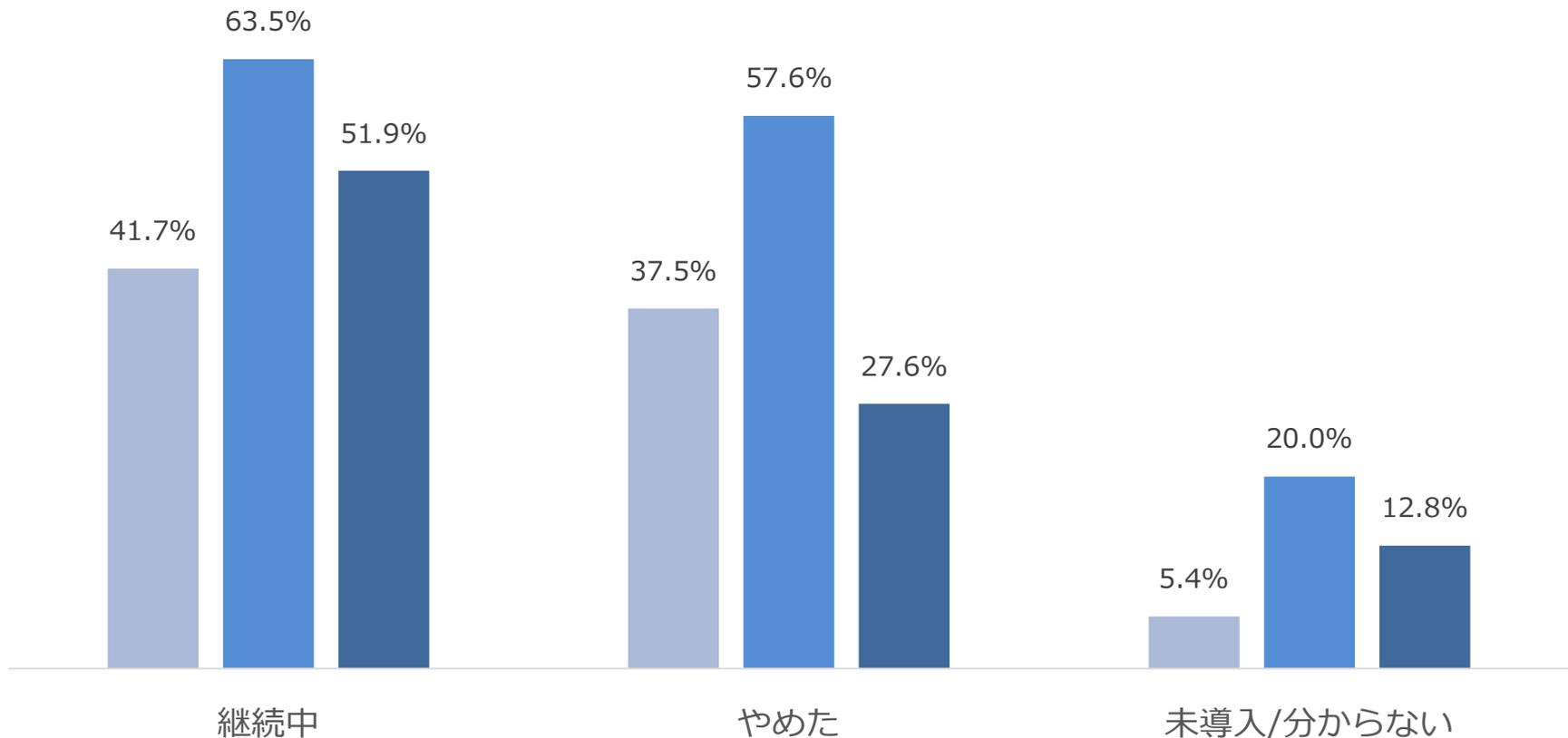
■ 2016年 ■ 2017年 ■ 2018年

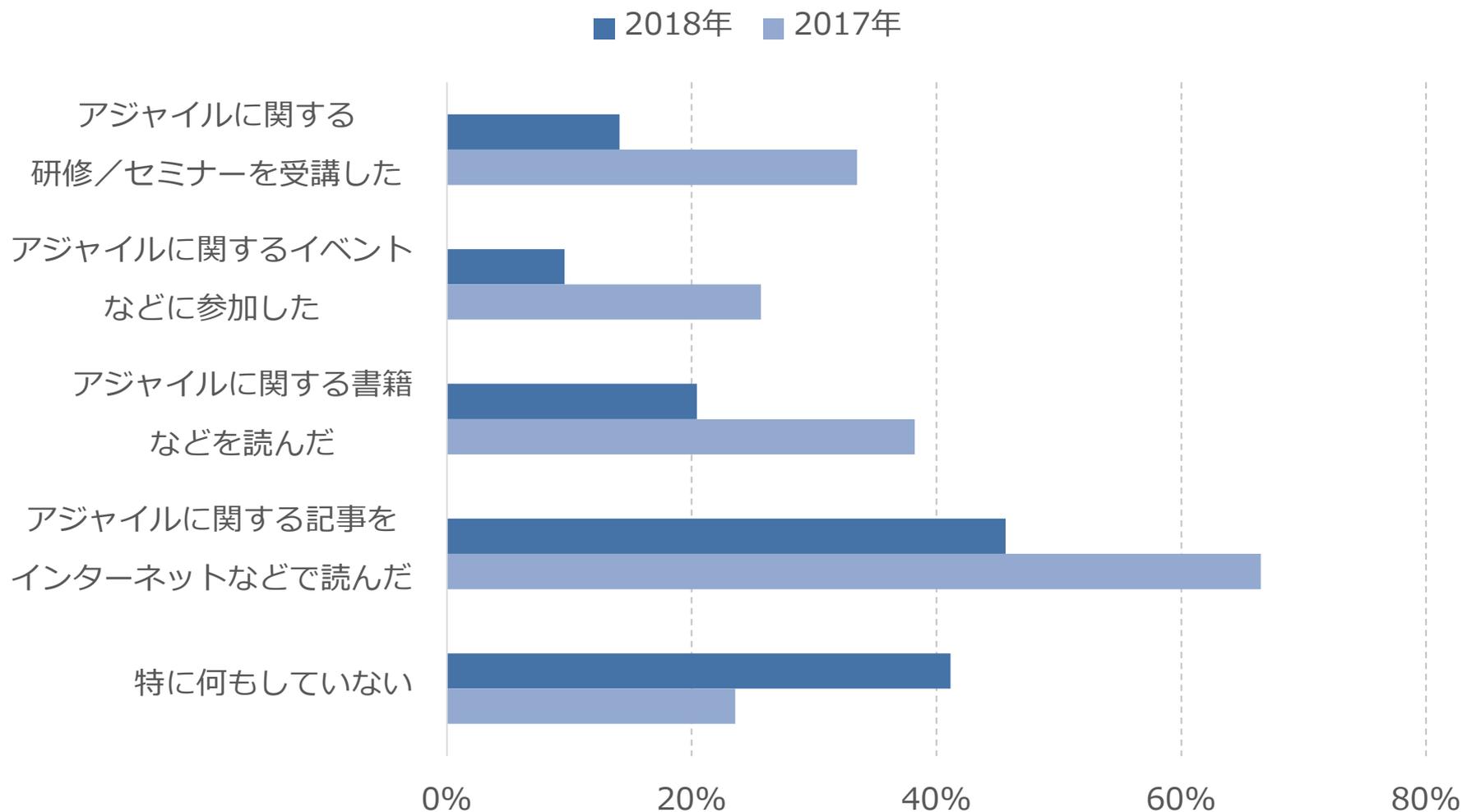


【I-9】アジャイル開発に関する用語（経年変化）

アジャイルソフトウェアの12の原則を知っている

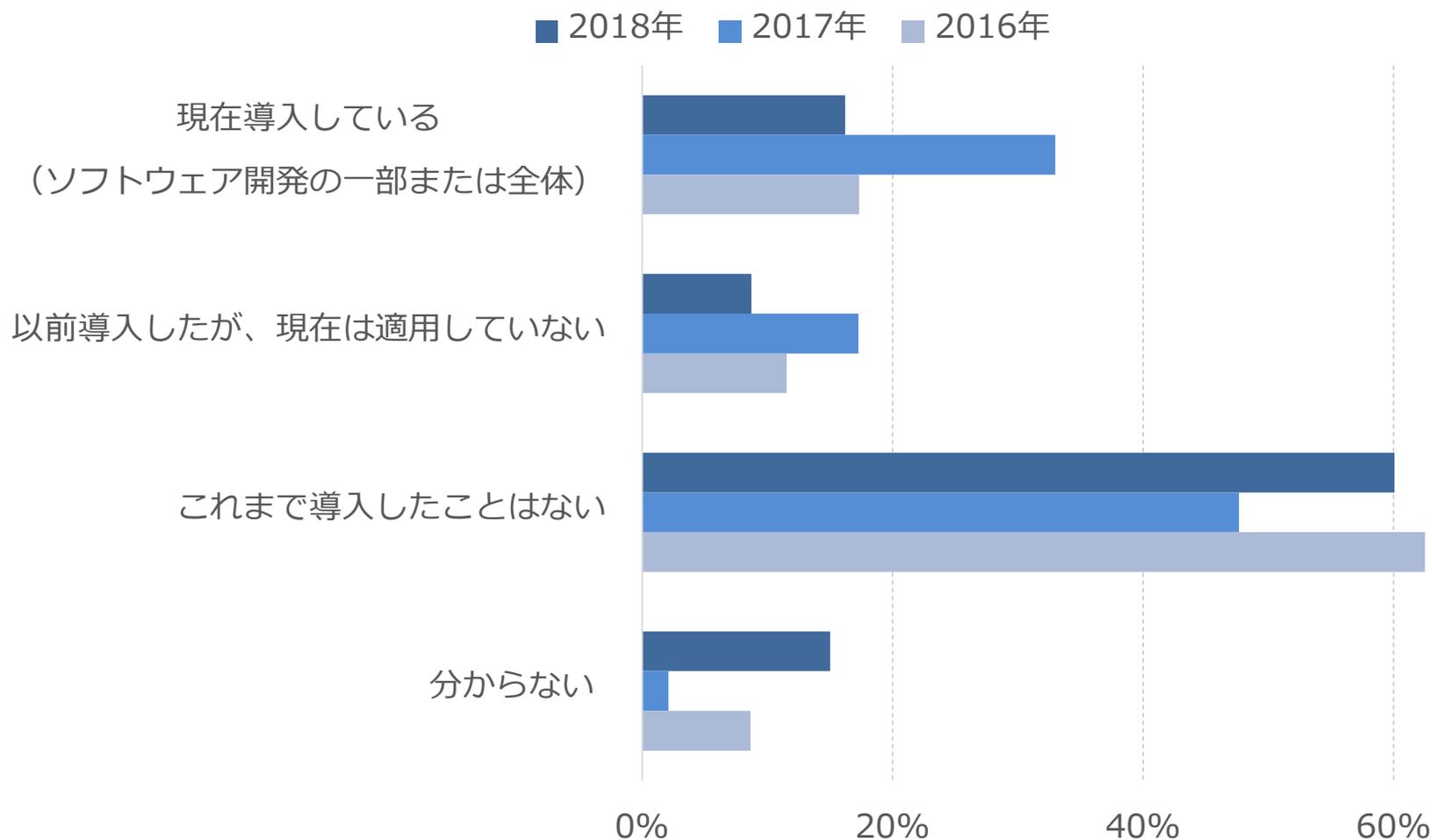
■ 2016年 ■ 2017年 ■ 2018年





【I-12】アジャイル開発手法の経験

複 初



Ⅱ 現在導入している (ソフトウェア開発の一部または全体)

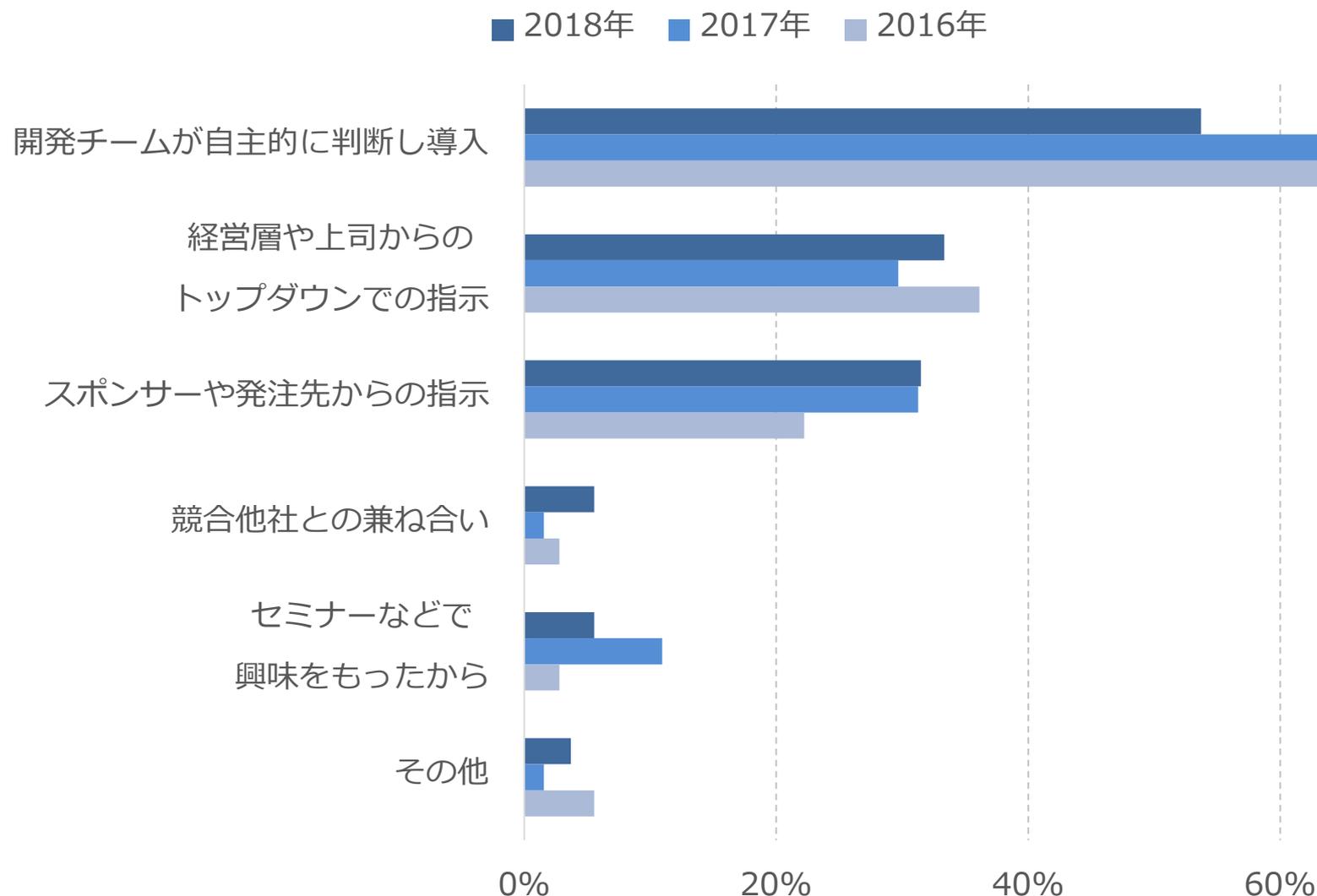
凡例

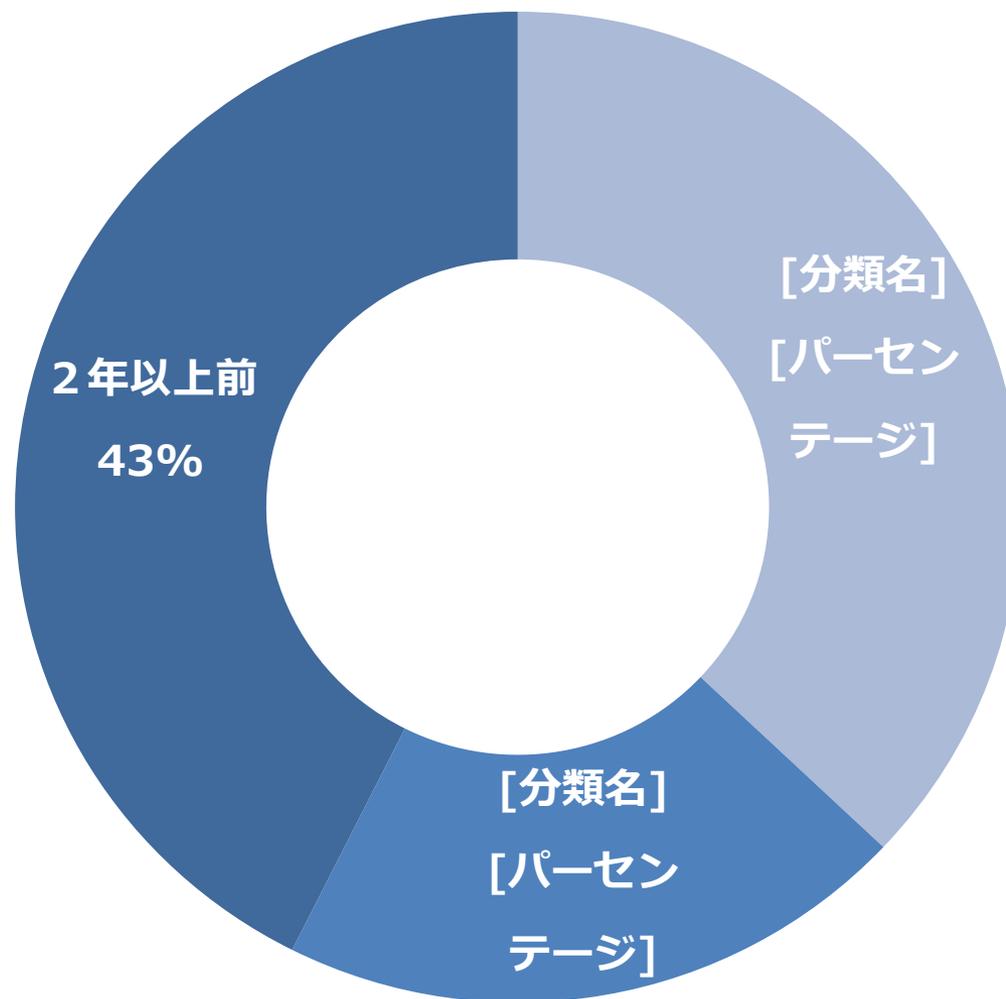
複 複数回答の質問

初 今年から始めた質問

【Ⅱ-1】アジャイル開発手法を導入したきっかけ

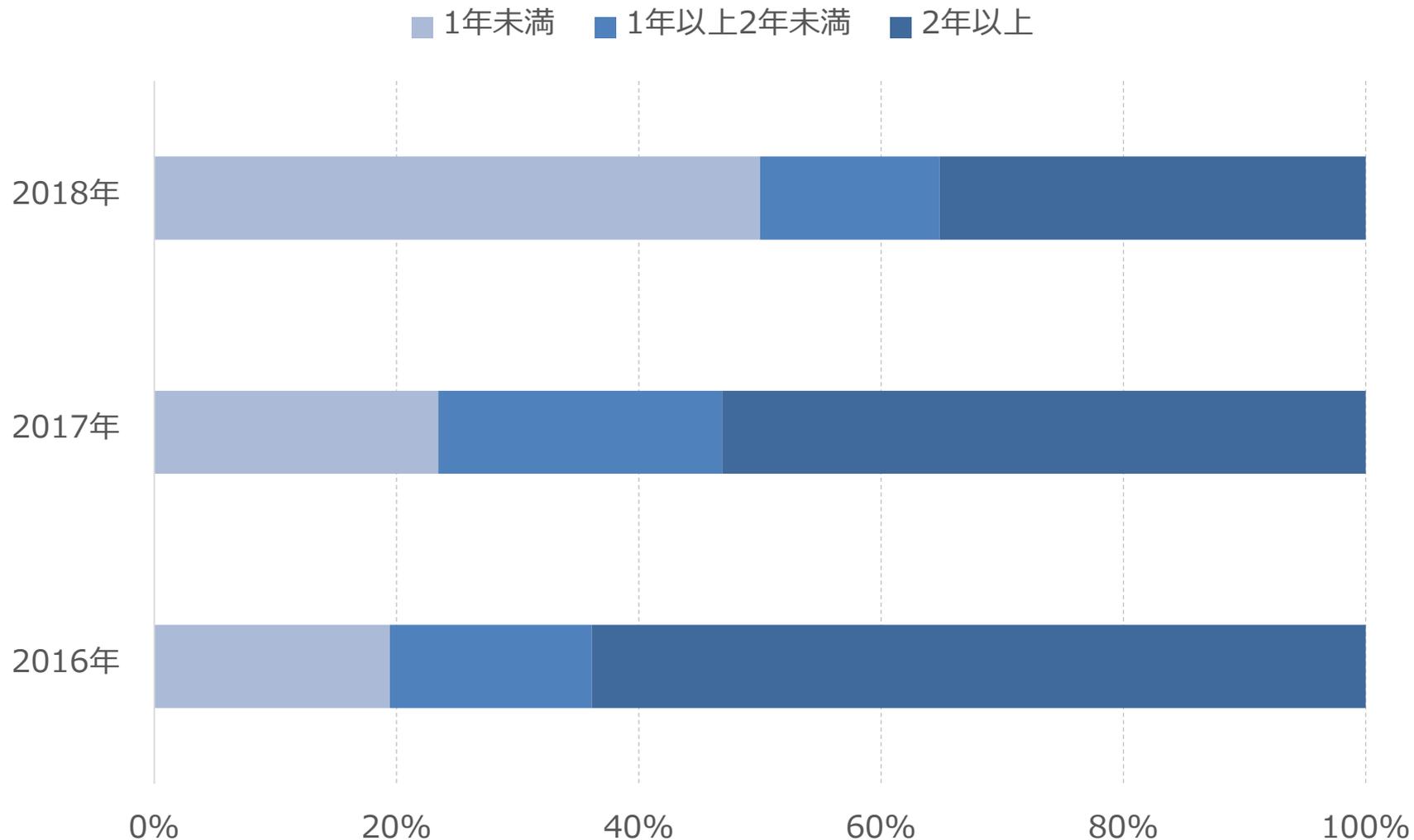
複 初





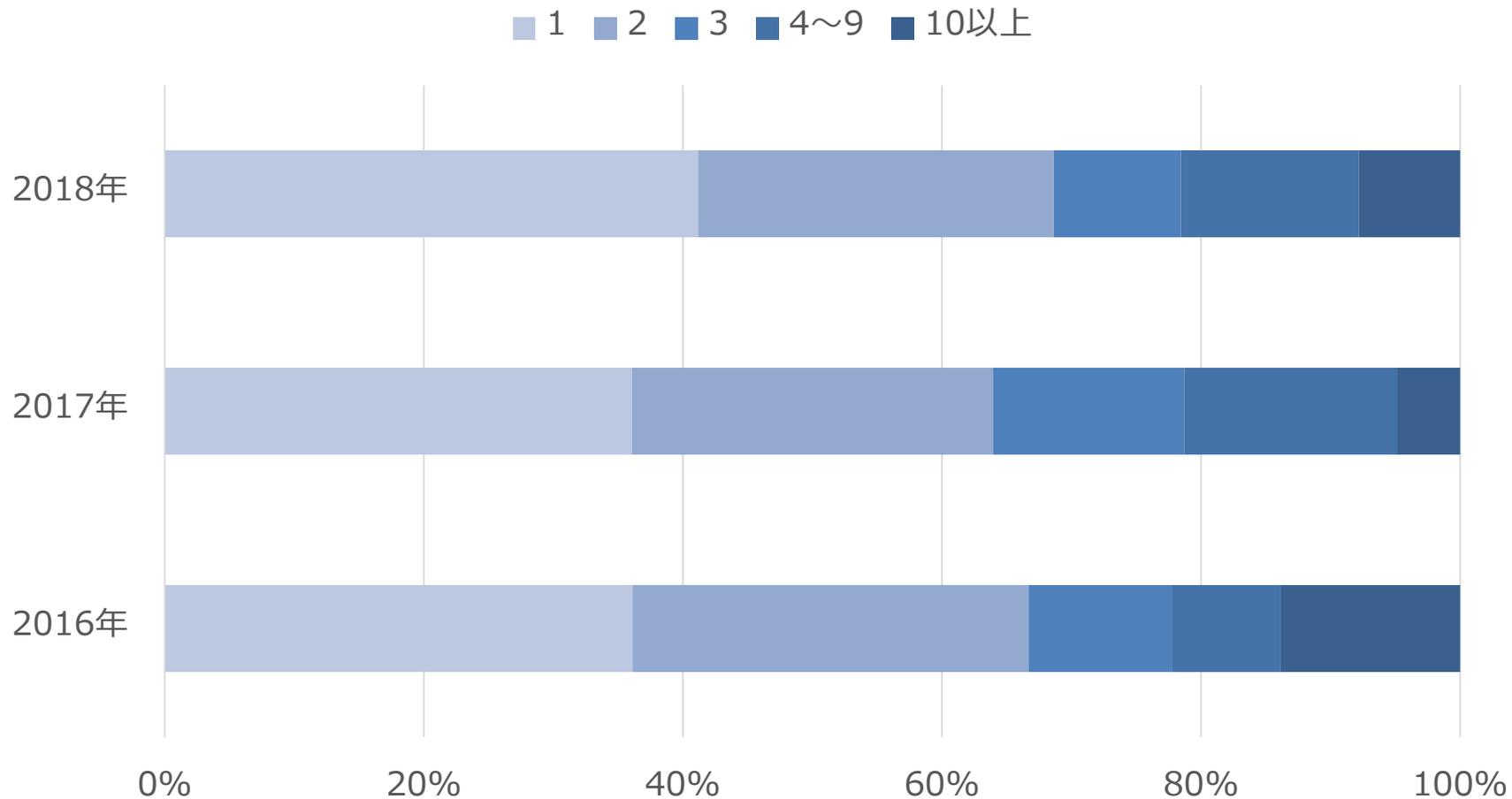
【Ⅱ-3】アジャイル開発手法を導入している期間

複 初



【Ⅱ-4】 アジャイル開発手法を導入したプロジェクト数

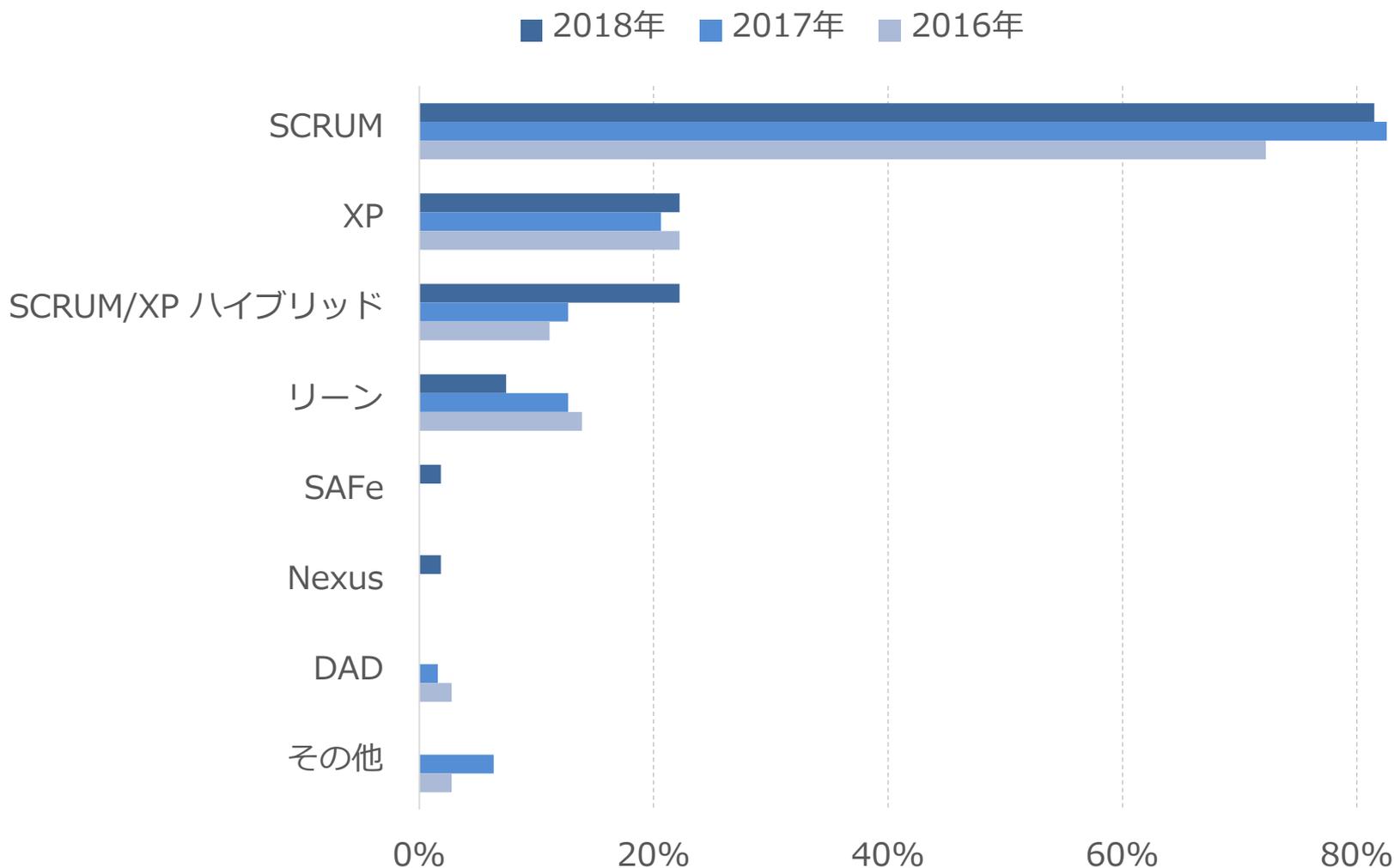
複 初



※ その他、未回答を除いた回答を100%として集計

【Ⅱ-5】導入していたアジャイル開発プロセス、手法

複 初

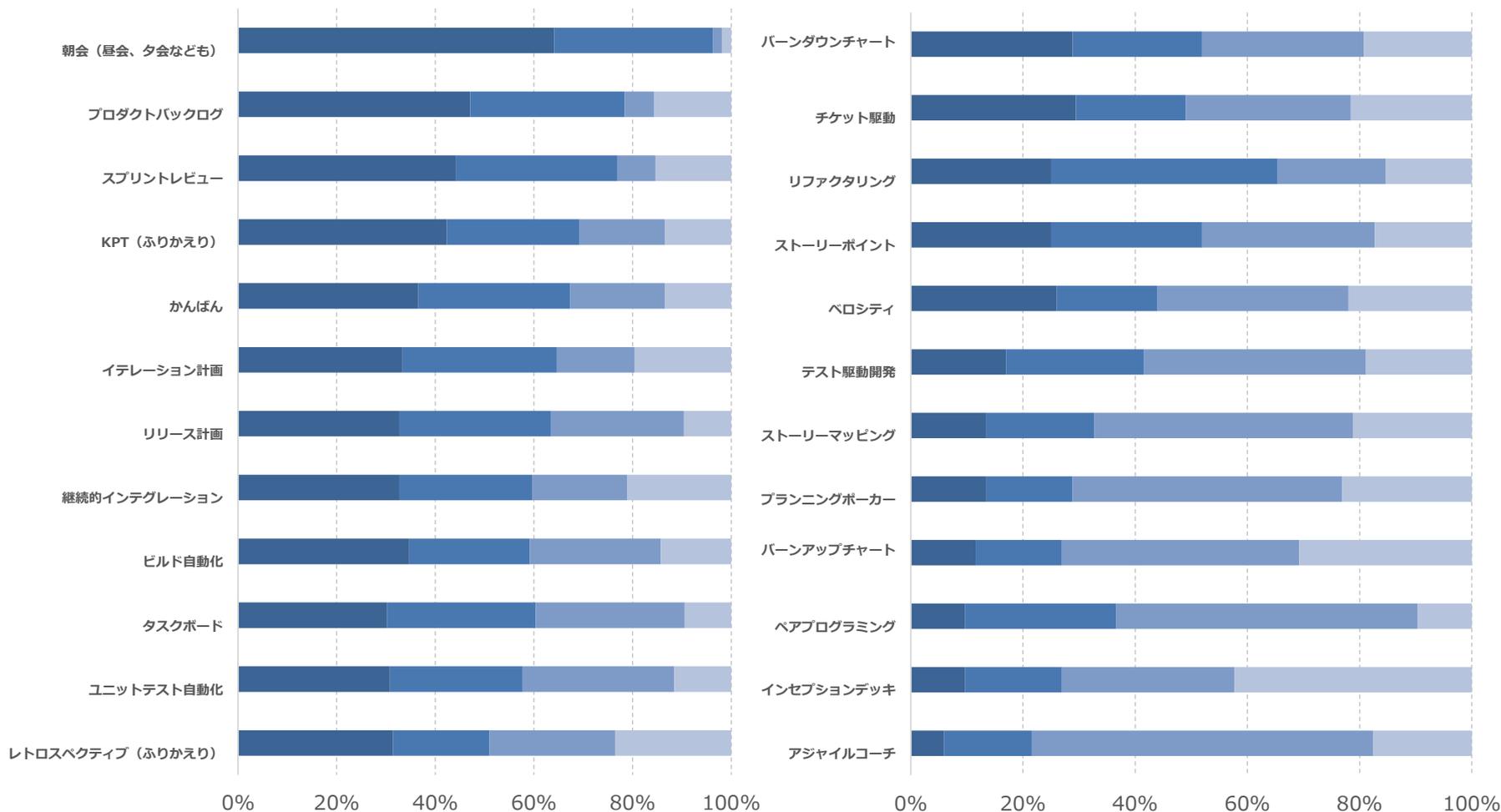


【Ⅱ-6】導入していたアジャイル開発プラクティス

複 初



■ よく導入している ■ 導入したことがある ■ 知っているが未導入 ■ 知らない



※ 未回答を除いた回答を100%として集計

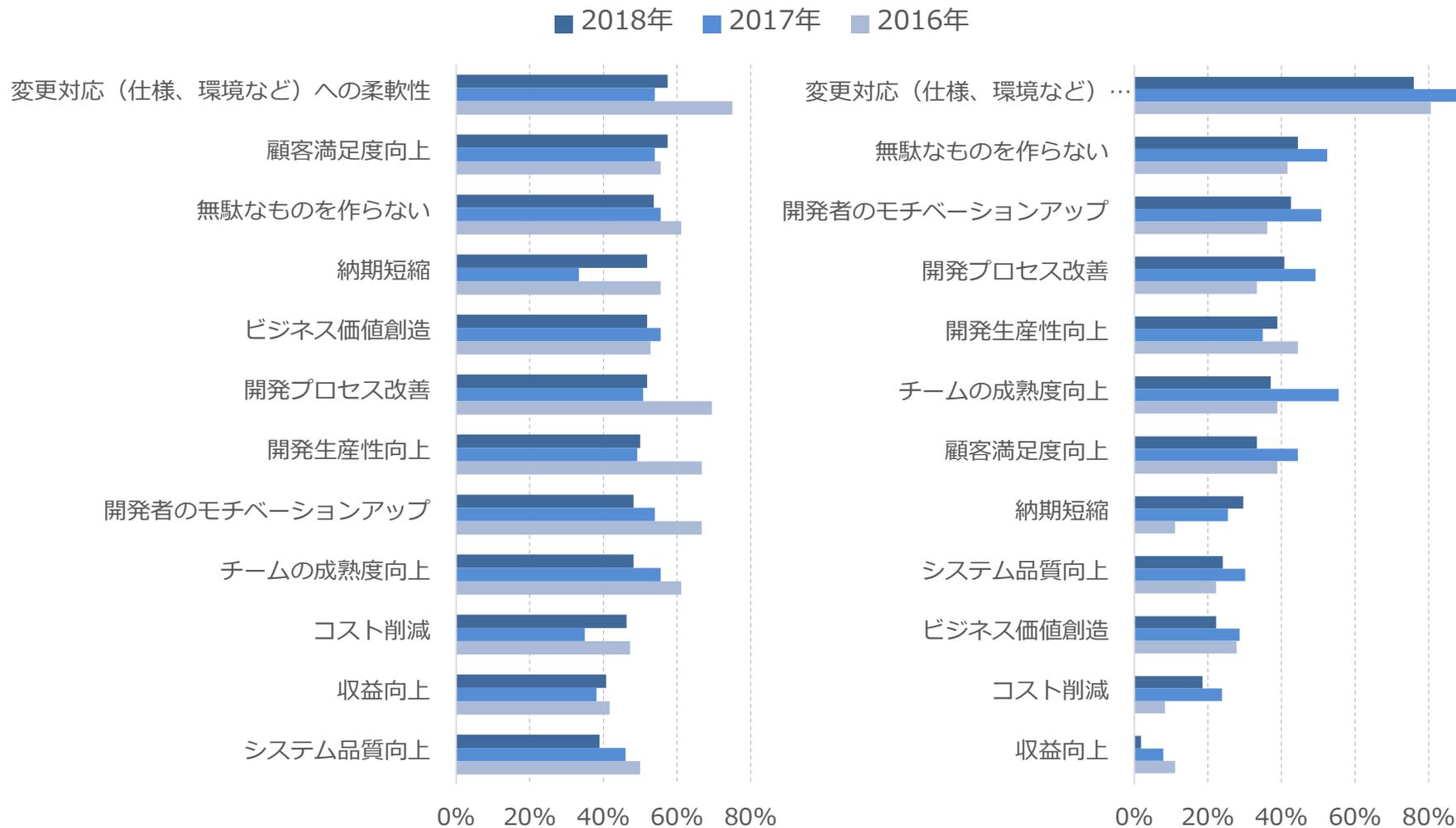
【Ⅱ-7】アジャイル開発に期待するもの、効果があったもの

複 初



期待するもの

効果があったもの



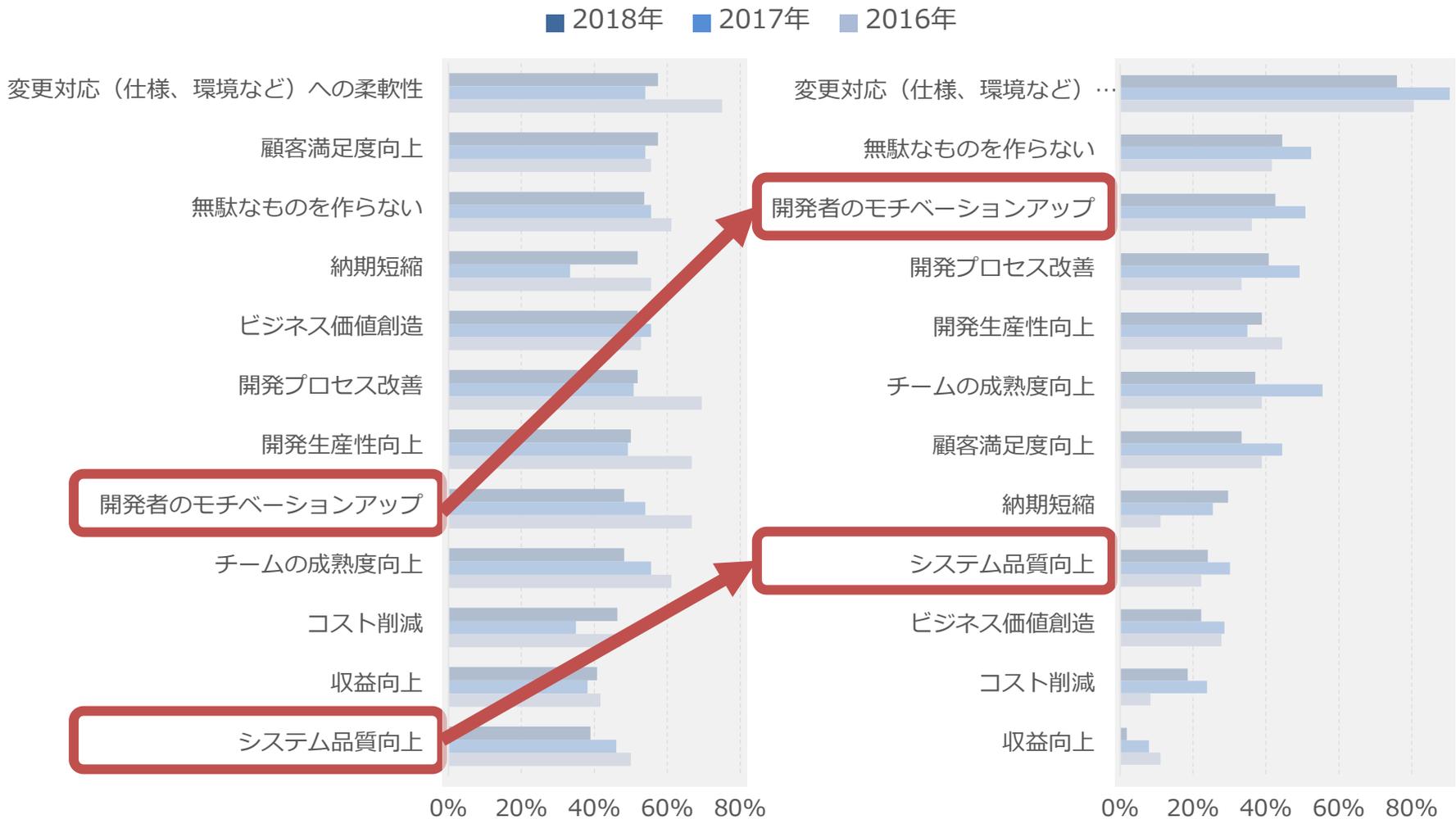
【Ⅱ-7】アジャイル開発に期待するもの、効果があったもの

複 初



期待するもの

効果があったもの



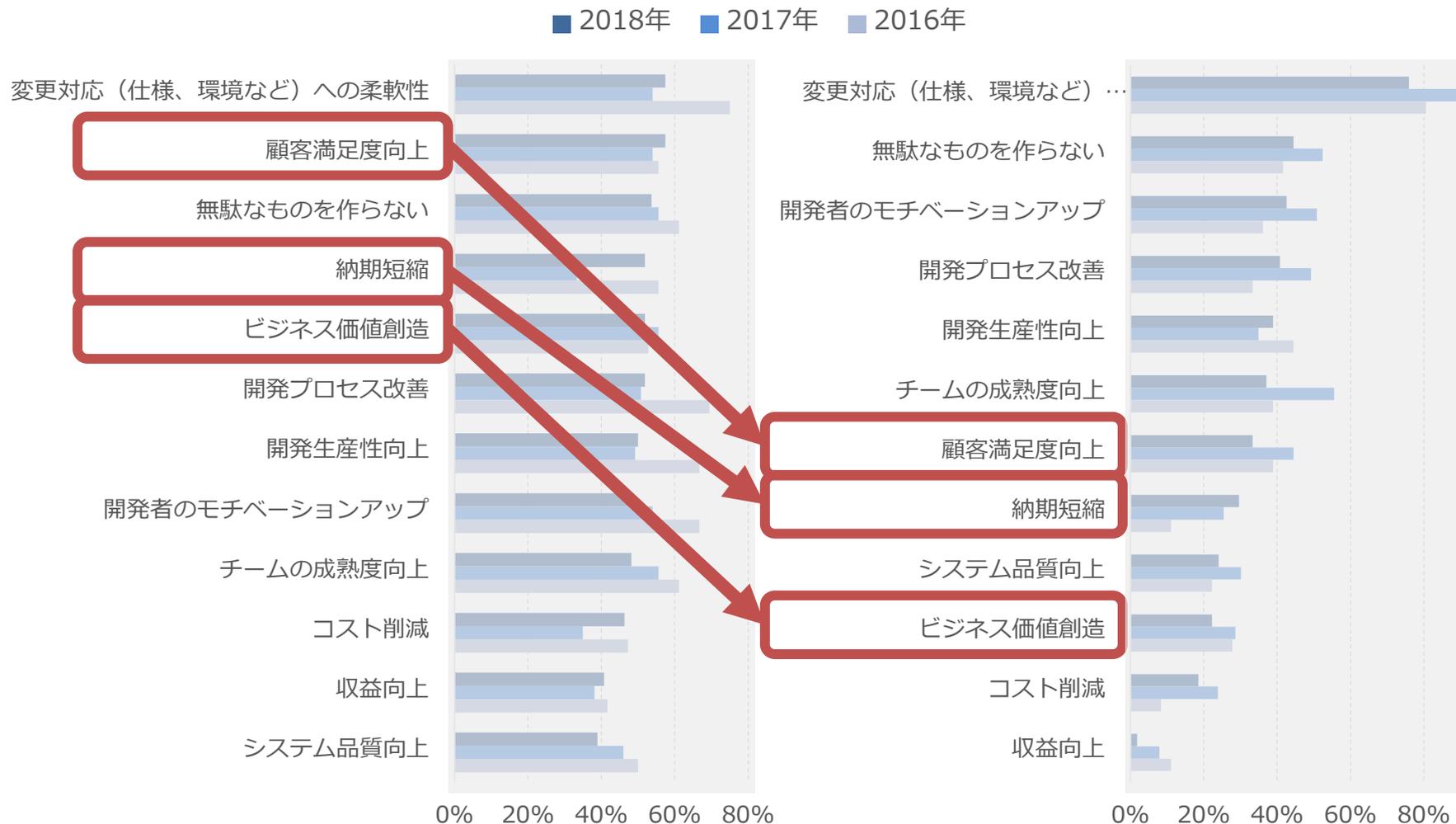
【Ⅱ-7】アジャイル開発に期待するもの、効果があったもの

複 初



期待するもの

効果があったもの

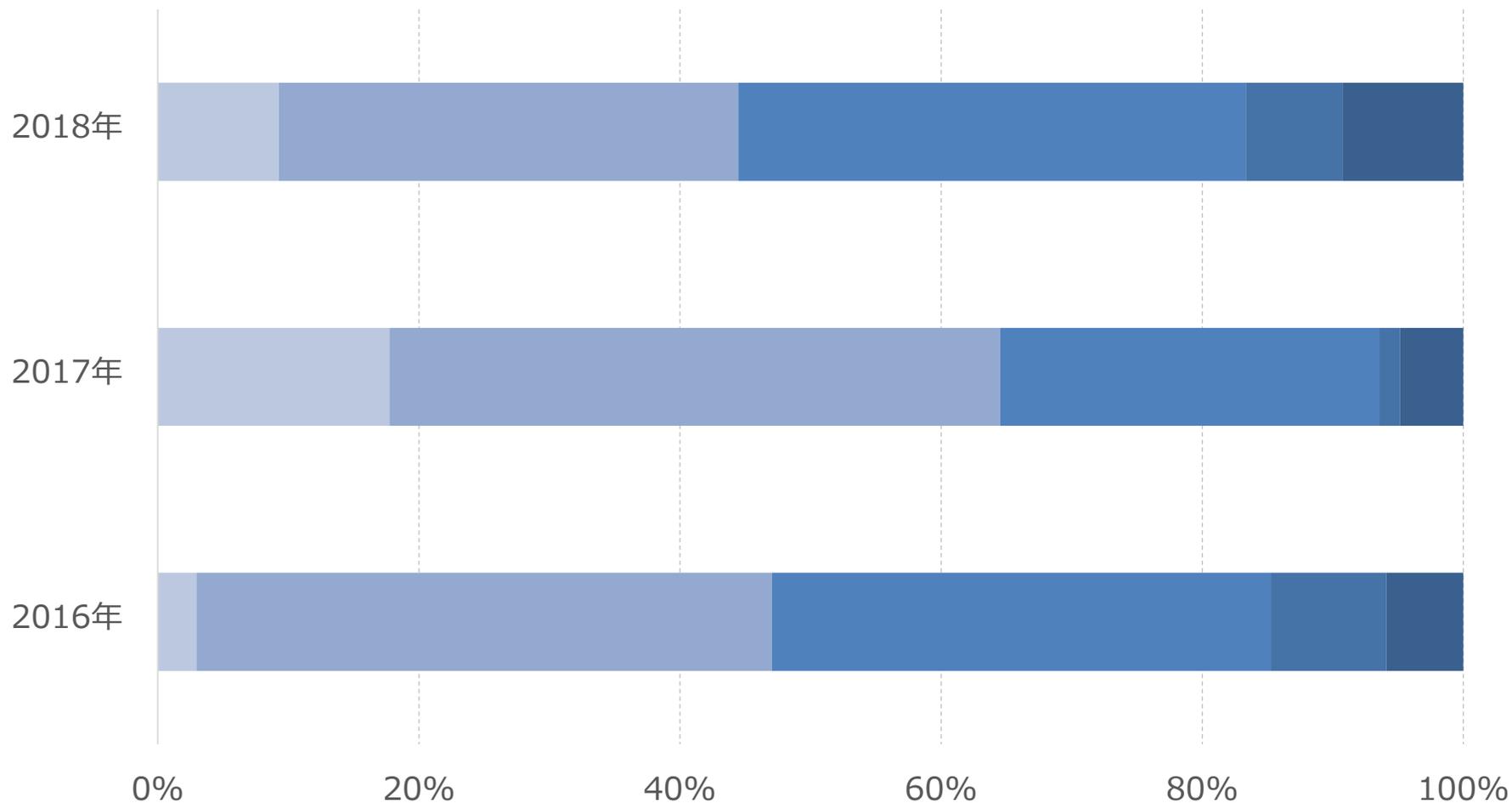


【Ⅱ-8】 アジャイル開発を適用しているチームの規模

複 初

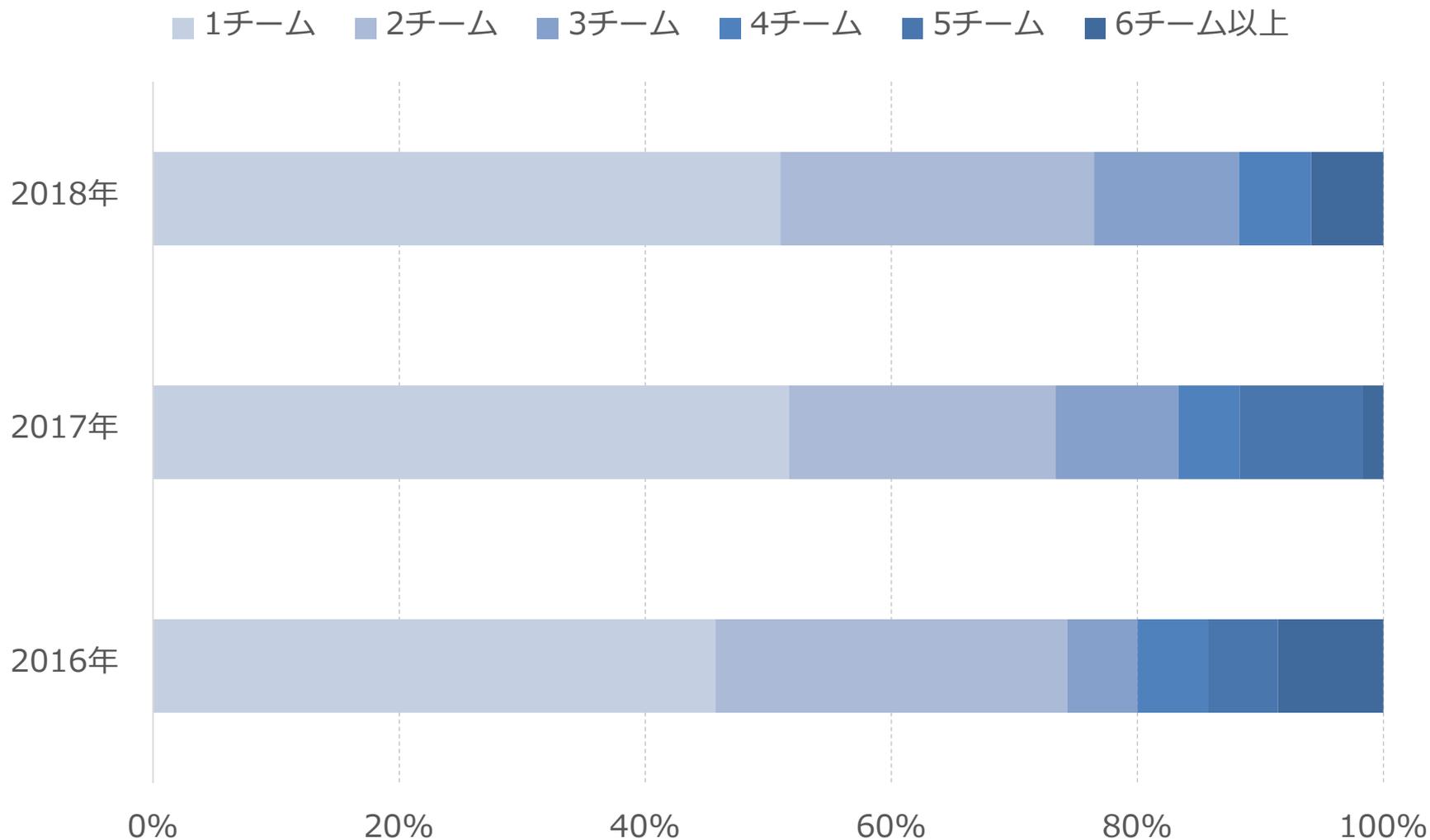


■ 1～3名 ■ 4～6名 ■ 7～10名 ■ 11～20名 ■ 21名以上



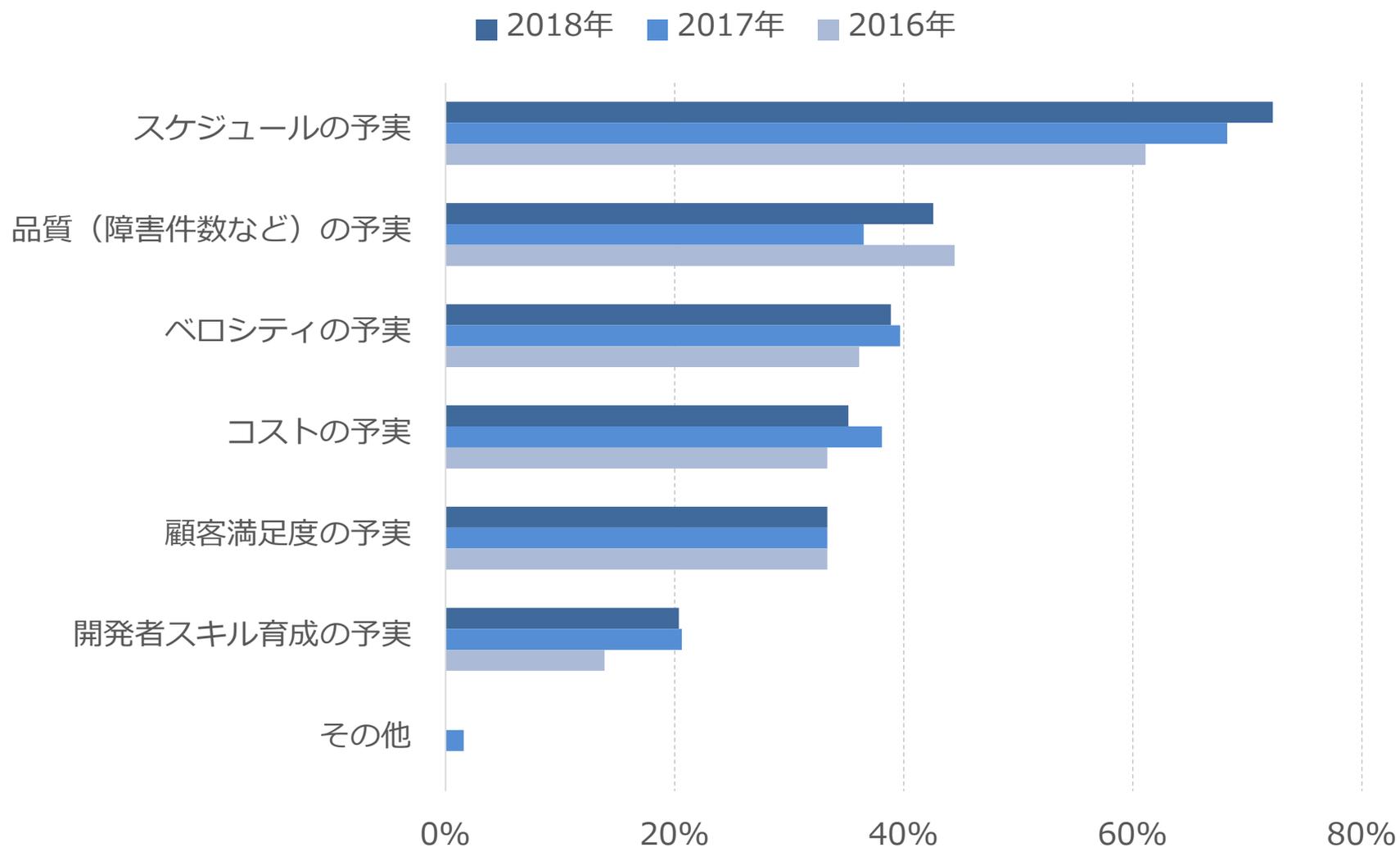
【Ⅱ-9】アジャイル開発を適用しているチームの数

複 初



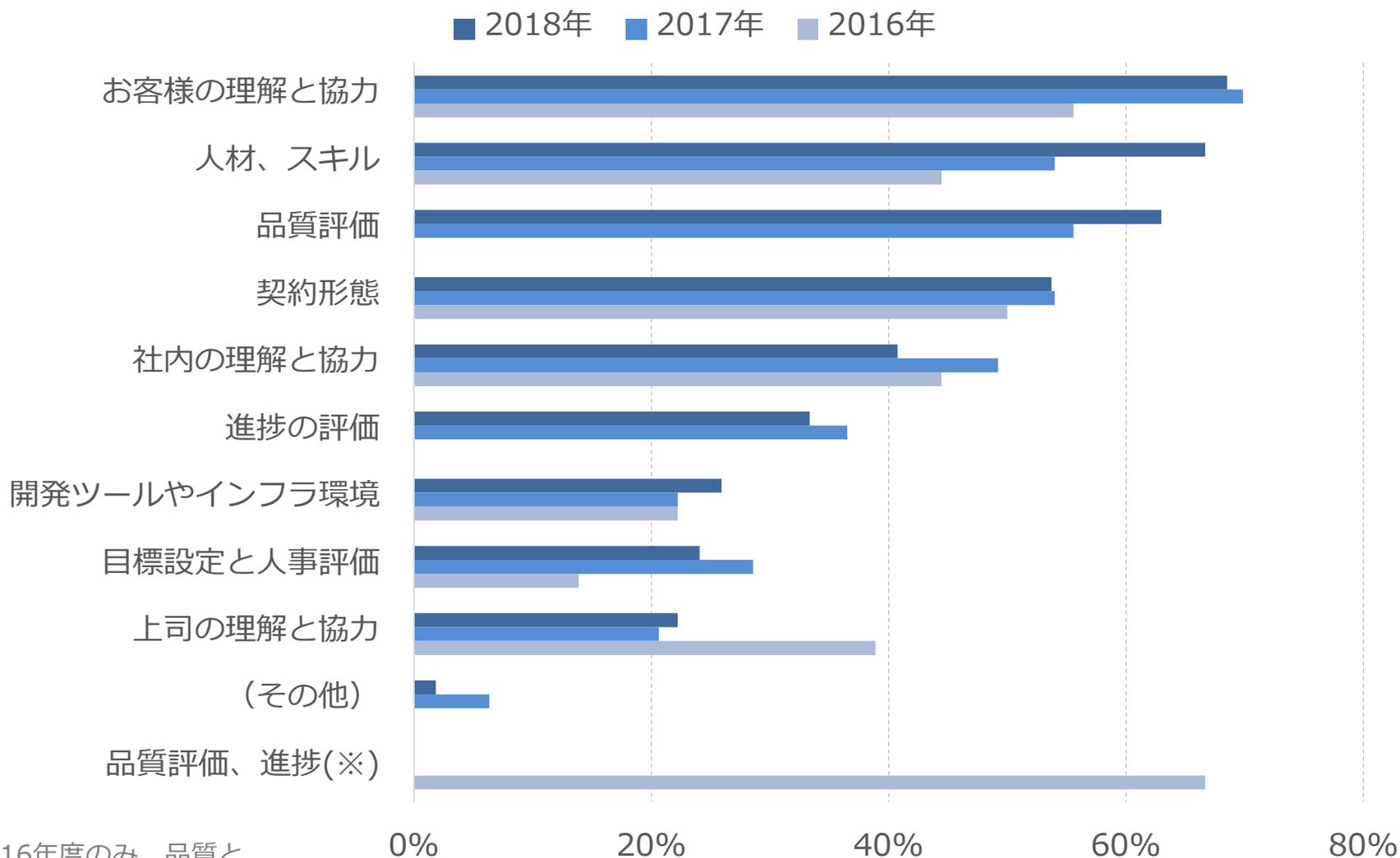
【Ⅱ-10】 アジャイル開発を評価するメトリクス

複 初



【Ⅱ-11】 アジャイル開発で難しいと感じる点

複 初



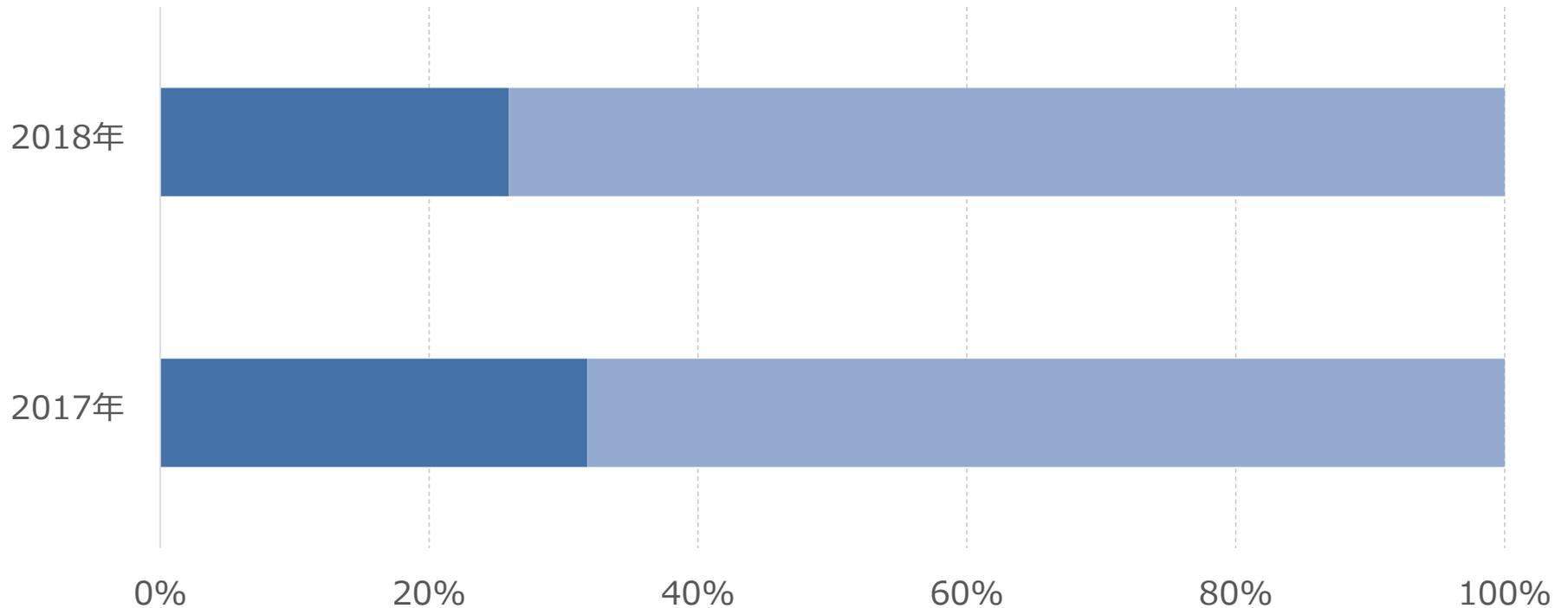
※ 2016年度のみ、品質と進捗を1項目としていた

【Ⅱ-12】 ビジネス価値の評価

複 初

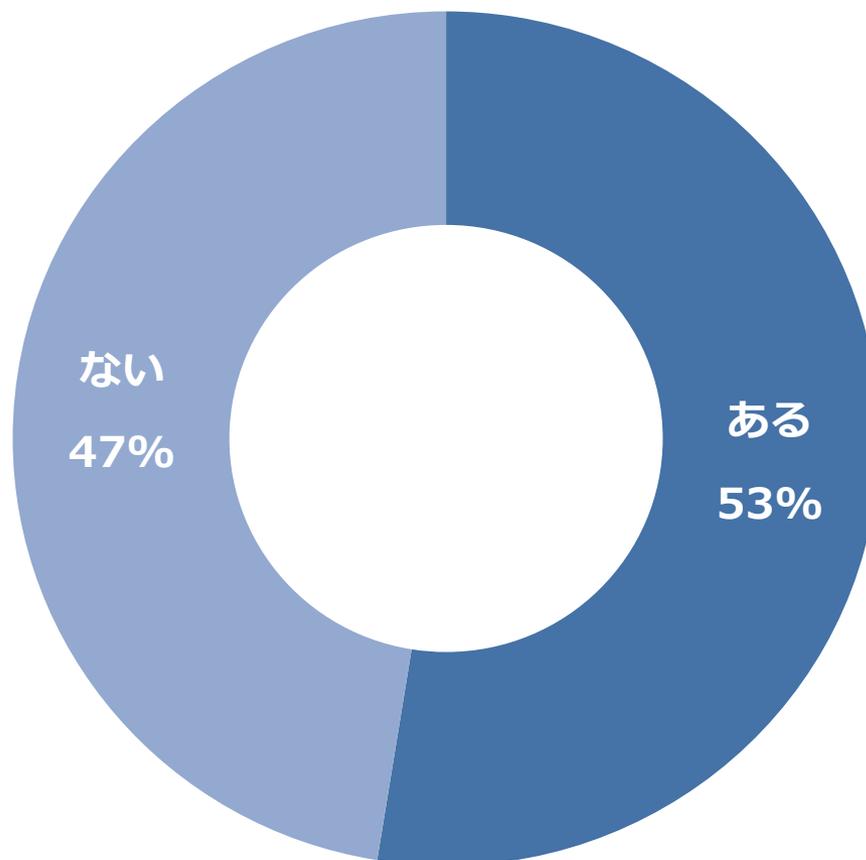


■ 評価している ■ 評価していない



【Ⅱ－12】 ビジネス価値の評価（評価項目）

- 売上高、利益率
- 継続的な売り上げ
- 商品への問い合わせ件数
- 契約件数
- 利用者数、ライセンス数、機能利用数
- サービス利用継続(サブスクリプション)
- リピート率
- 開発生産性、作業効率時間

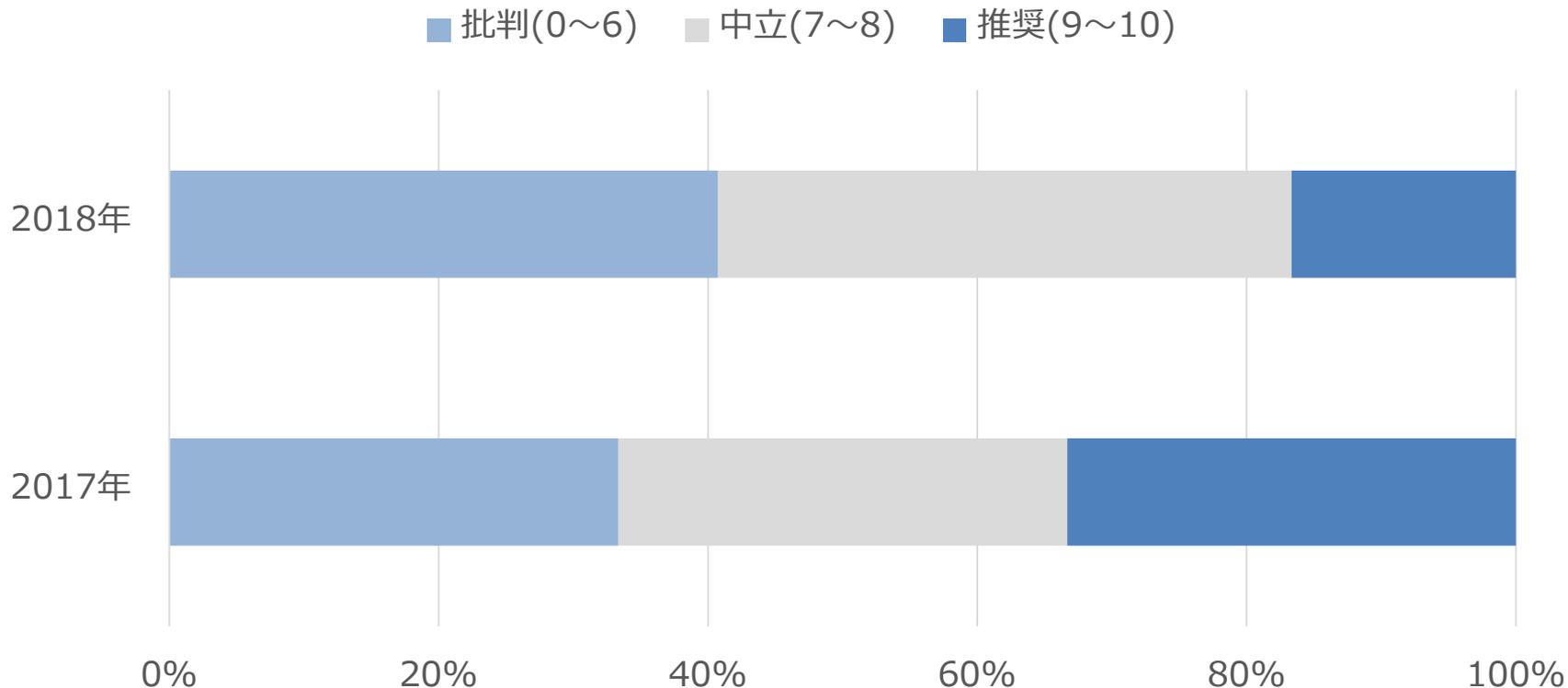


【Ⅱ－13】 参考にしている書籍、Webサイト

- アジャイルサムライ
- SCRUM BOOT CAMP The book
- アジャイルソフトウェア開発の奥義
- カイゼンジャーニー
- スクラムガイド
- C#実践開発手法 デザインパターンと SOLID原則によるアジャイルなコーディング
- Clean Code
- アジャイルな計画と見積もりづくり
- アジャイルモデリング
- アジャイル開発とスクラム
- アジャイル検定公式テキスト
- エッセンシャル スクラム
- オブジェクト指向における再利用のためのデザインパターン
- カンバン
- ハイブリッドアジャイルの実践
- ピープルウェア
- リーン・スタートアップ
- わかりやすいアジャイル開発の教科書
- アジャイルジャパン (<https://www.agilejapan.org/>)
- アジャイル開発とは？今さら聞けない開発手法のメリット・デメリット (https://hnavi.co.jp/knowledge/blog/agile_software_development/)
- Ryuzee.com (<https://www.ryuzee.com/>)

【Ⅱ-14】アジャイル開発を薦める可能性

複 初



「0=薦める可能性はまったくない、10=薦める可能性は極めて高い」として薦める可能性を数値化
なお、「批判、中立、推奨」の区分けはネットプロモータースコアに準拠

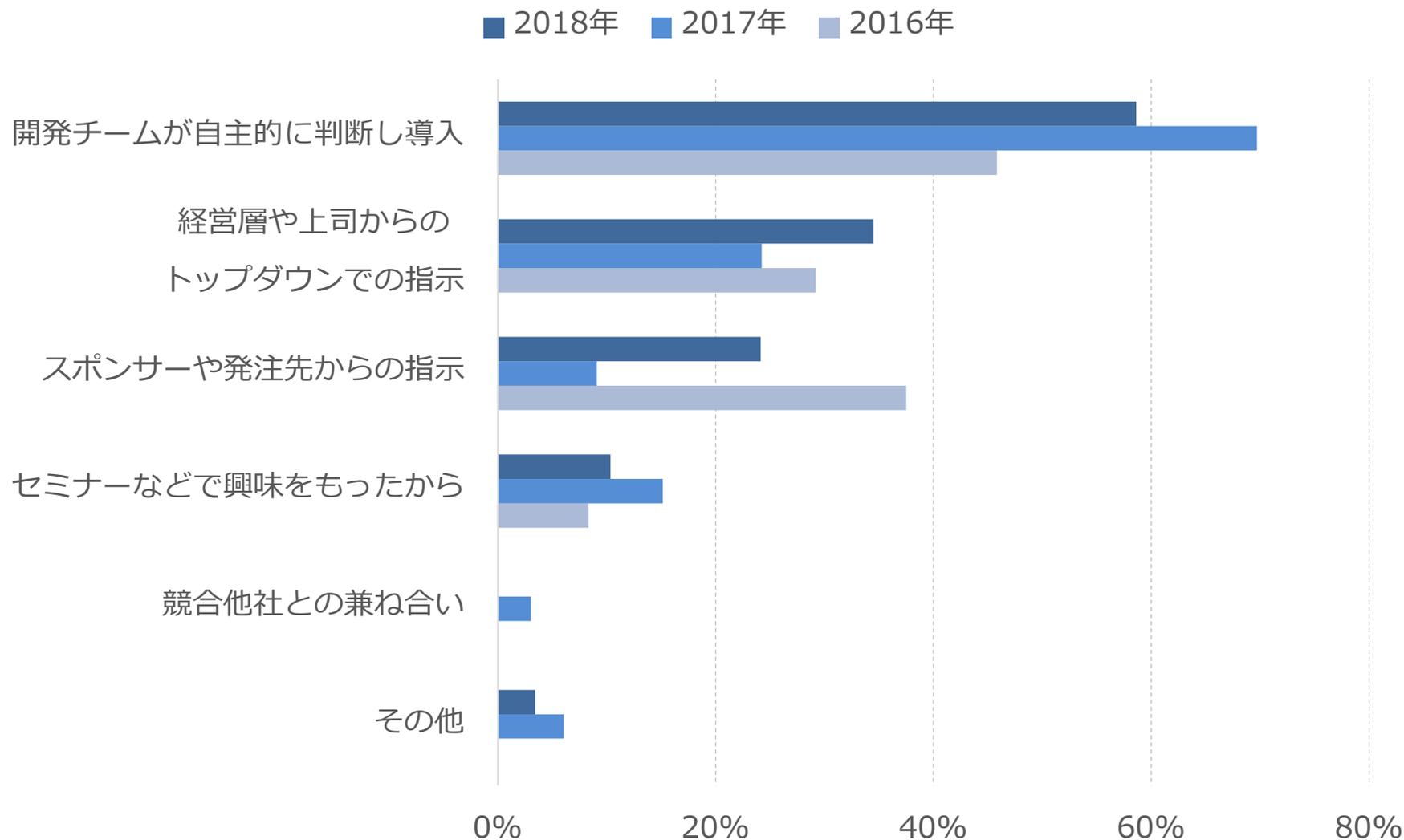
参考: <https://jp.surveymonkey.com/mp/net-promoter-score-definition-formula/>

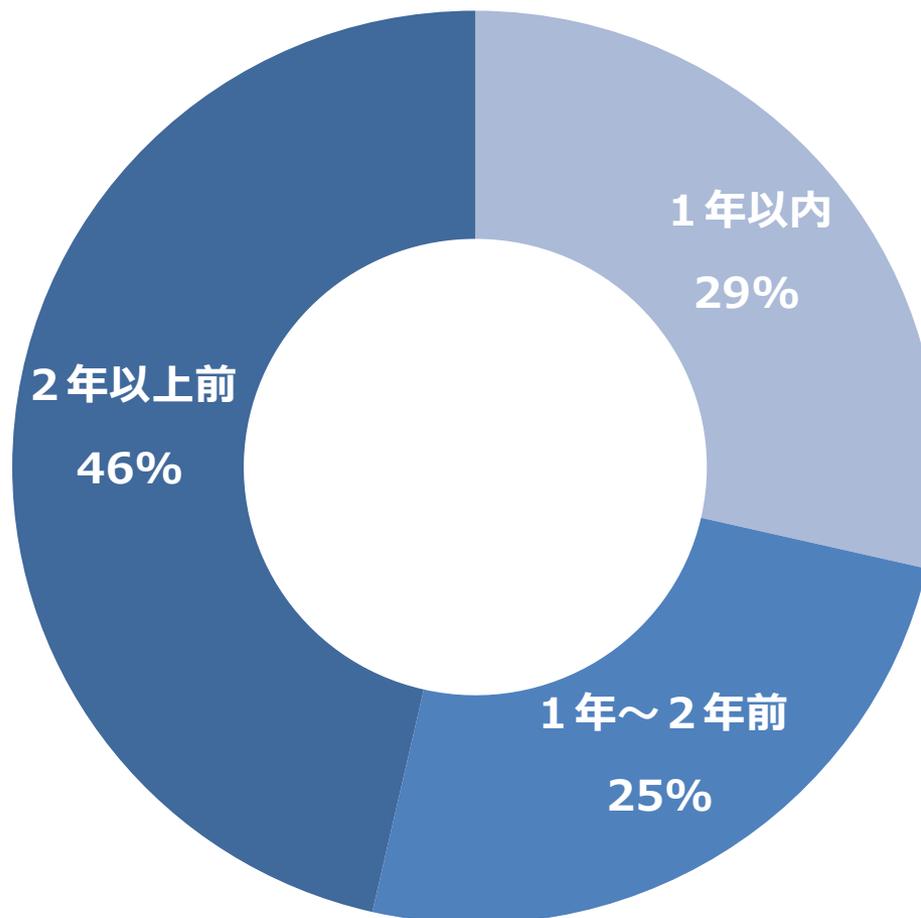
Ⅲ 以前導入したが、 現在は適用していない

凡例

複 複数回答の質問

初 今年から始めた質問

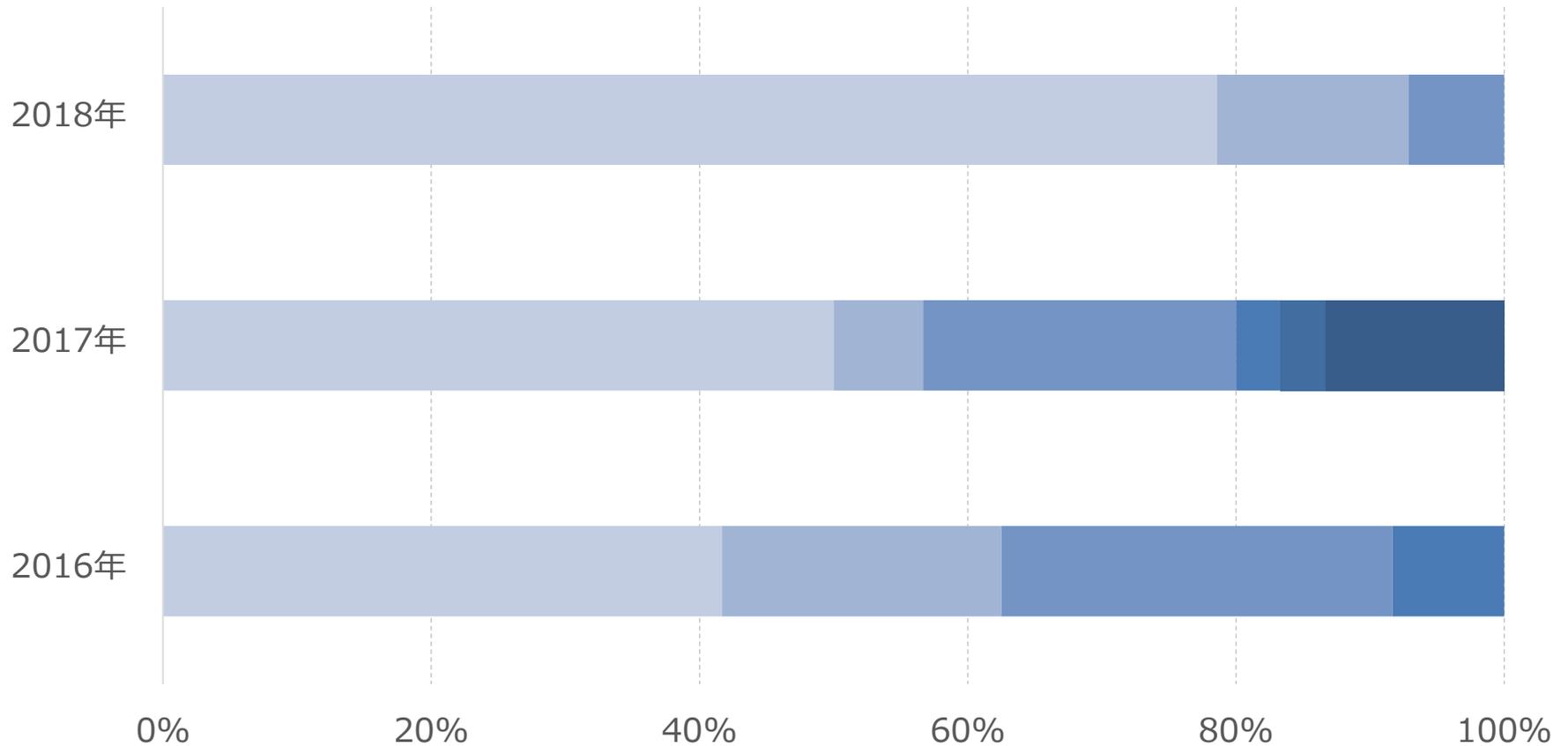




【Ⅲ-3】 アジャイル開発手法を導入していた期間 複 初

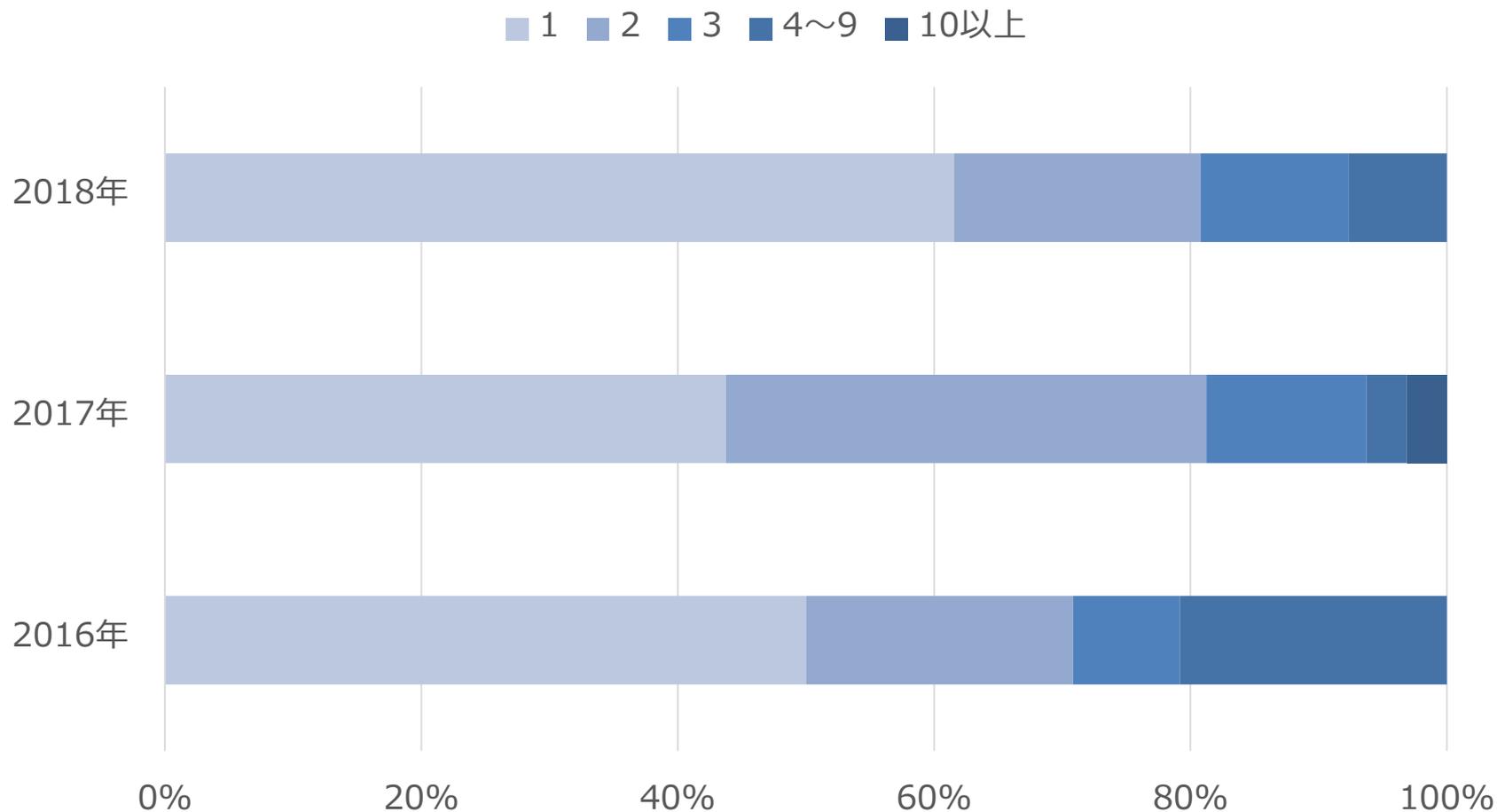


- 1年未満
- 1年以上2年未満
- 2年以上3年未満
- 3年以上4年未満
- 4年以上5年未満
- 5年以上10年未満

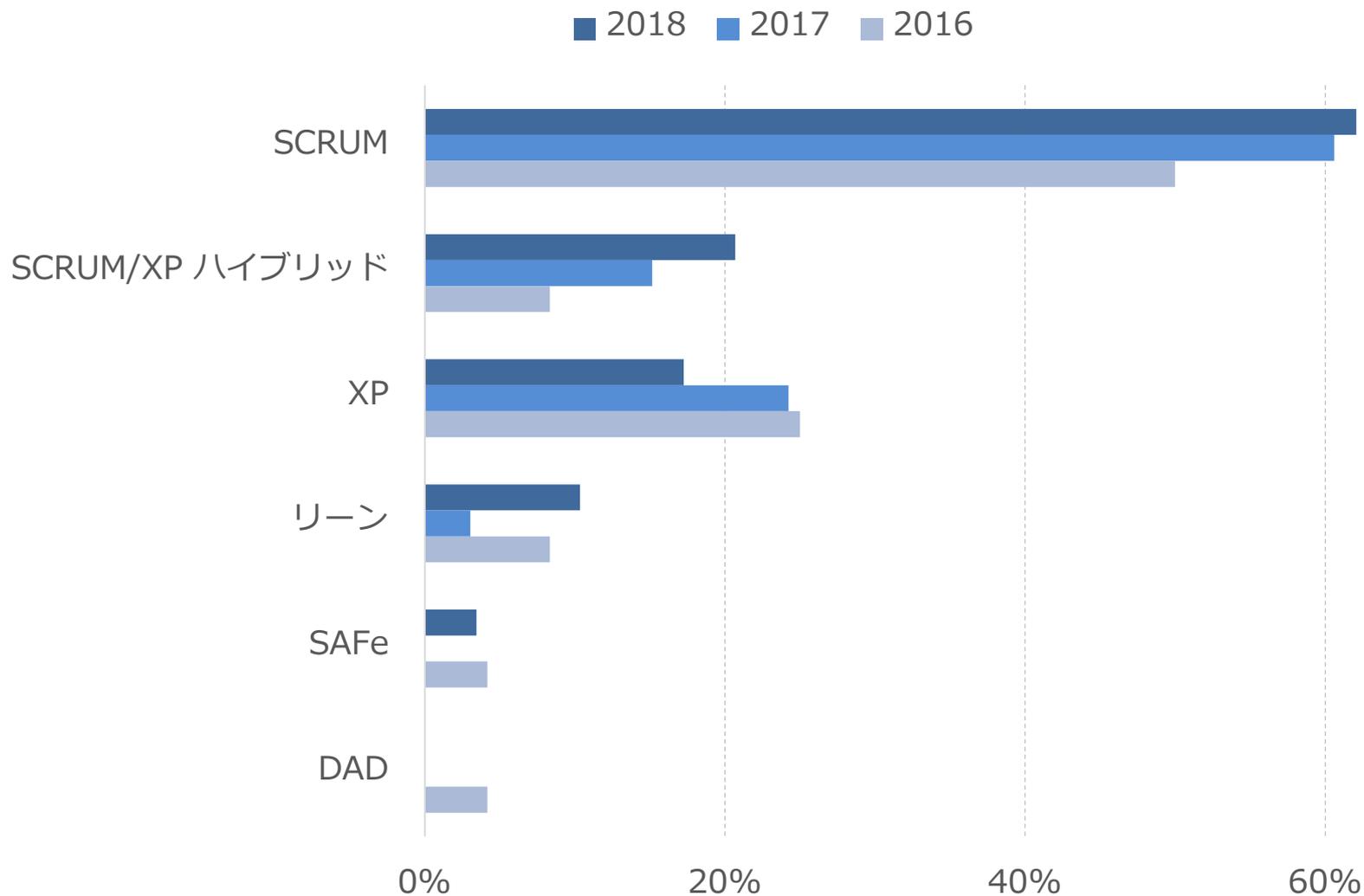


【Ⅲ-4】 アジャイル開発手法を導入したプロジェクト数

複 初



※ その他、未回答を除いた回答を100%として集計

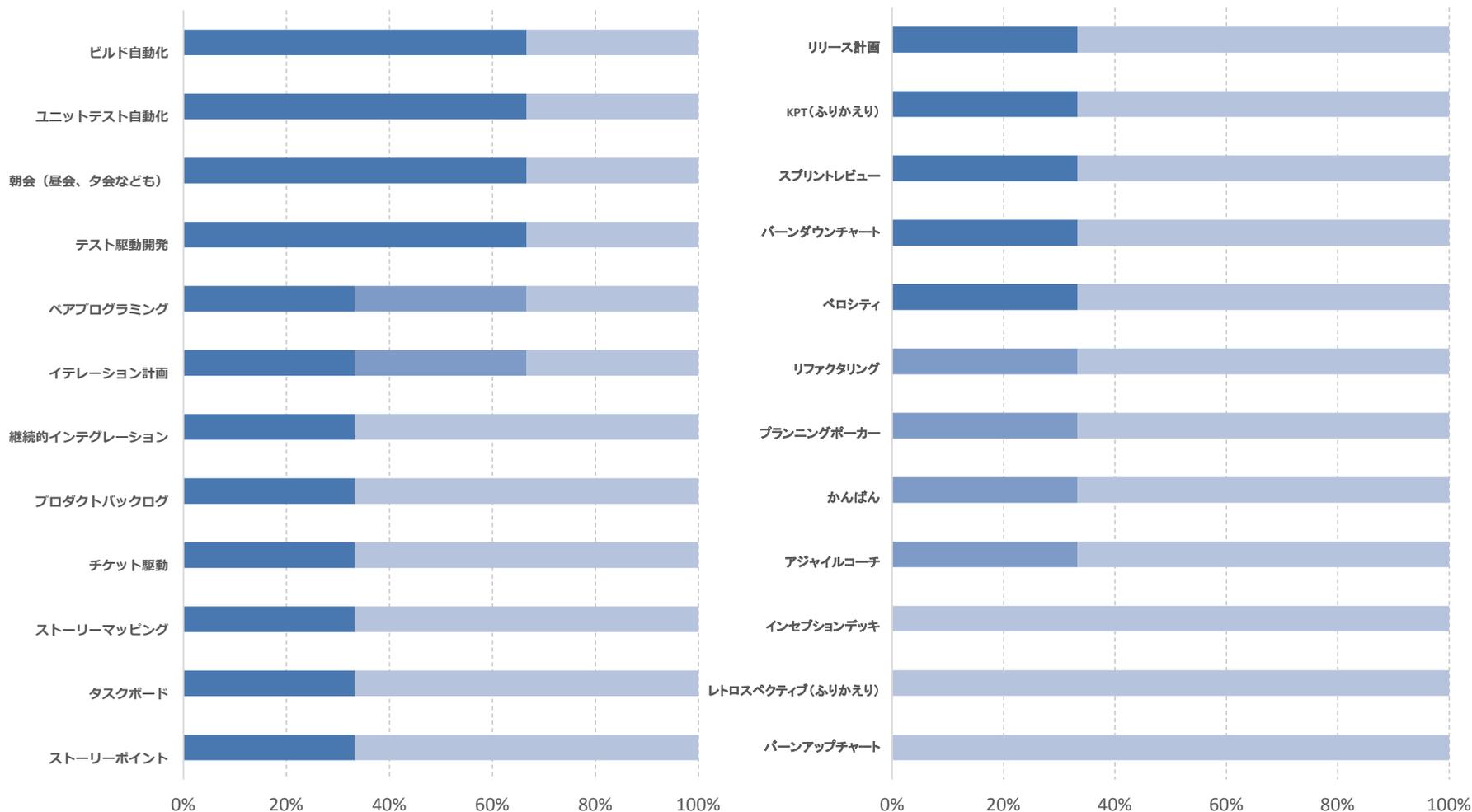


【Ⅲ-6】導入していたアジャイル開発プラクティス

複 初



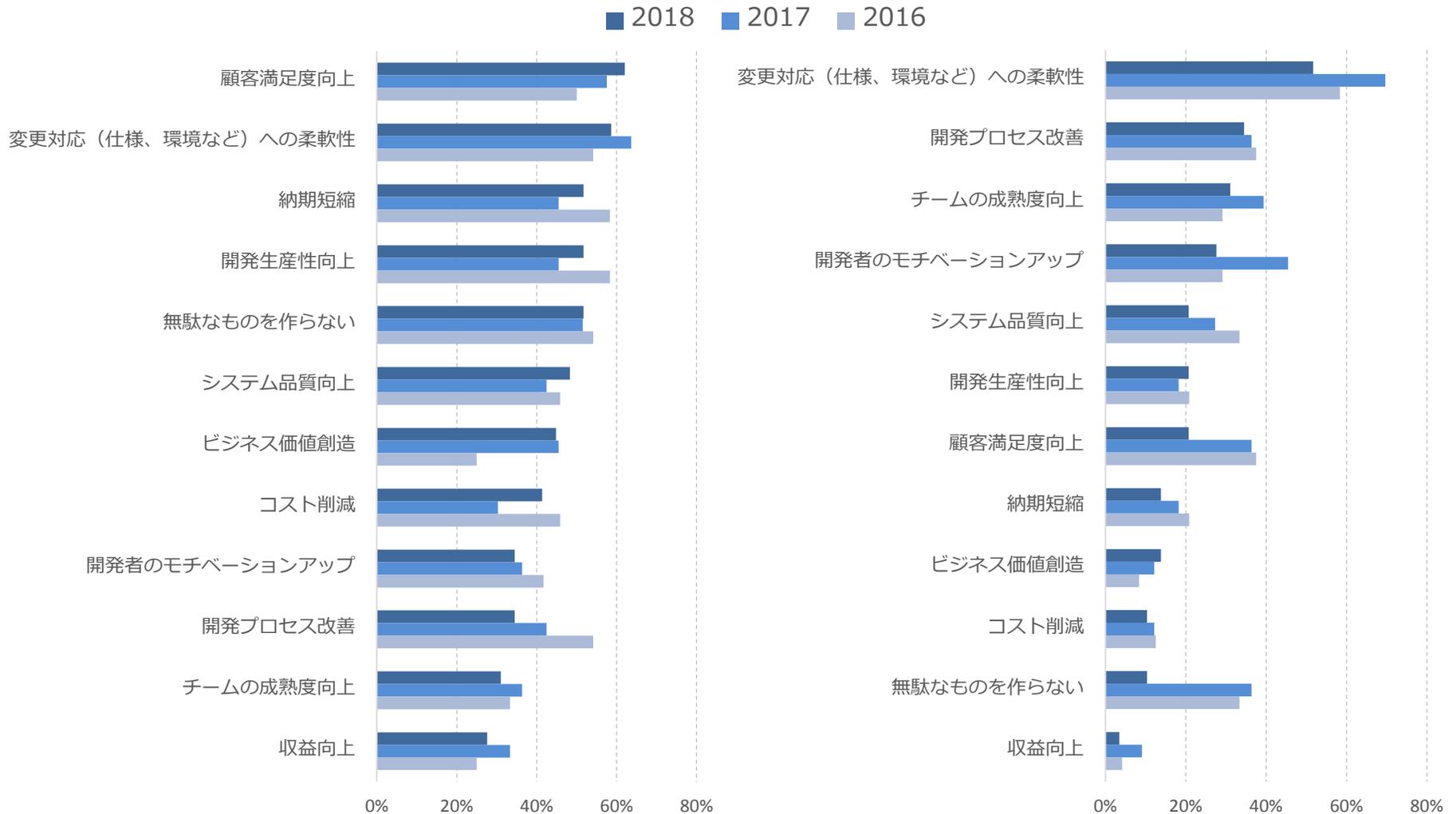
■ よく導入している ■ 導入したことがある ■ 知っているが未導入 ■ 知らない



※ 未回答を除いた回答を100%として集計（回答数3件）。

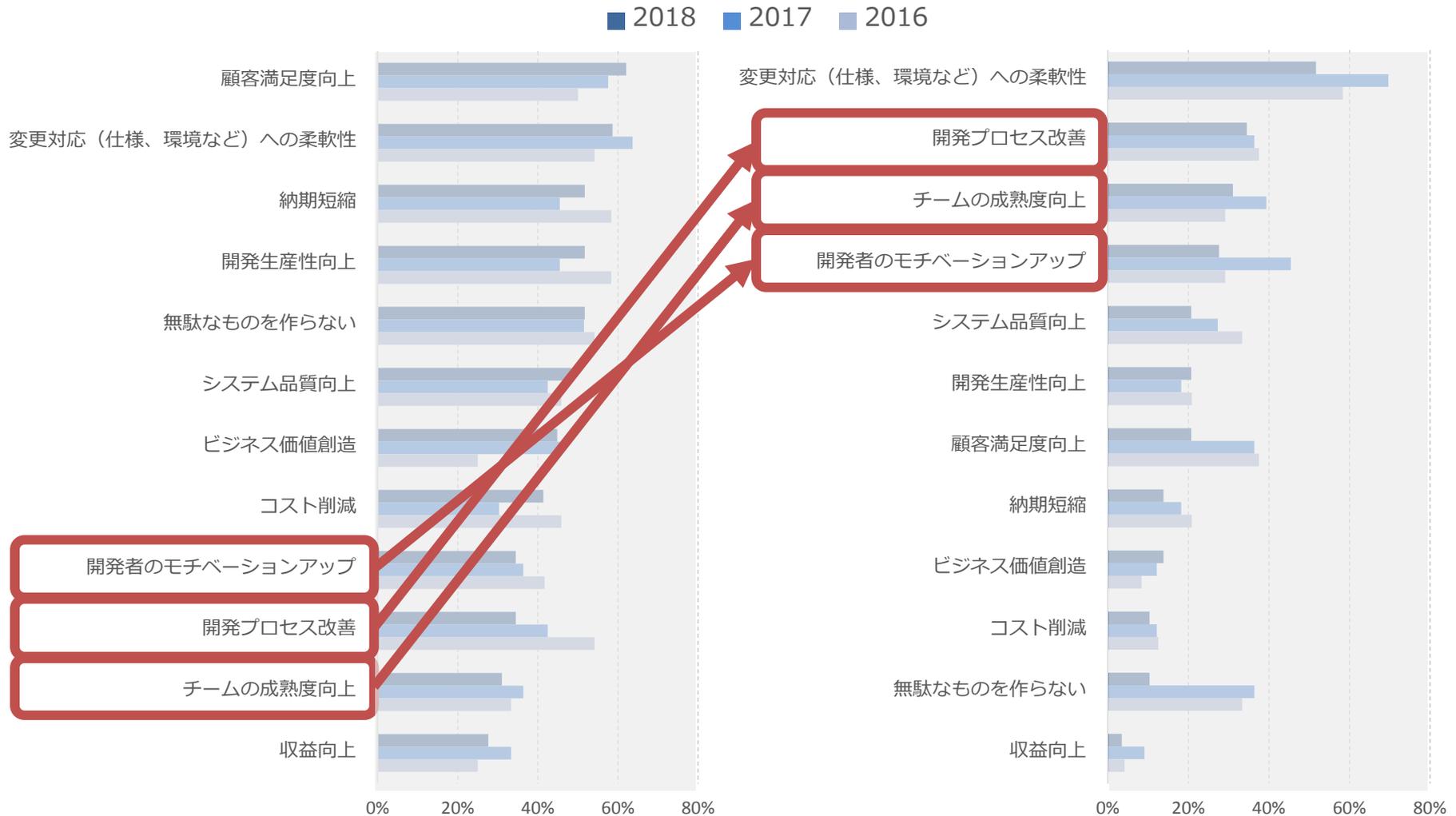
期待するもの

効果があったもの



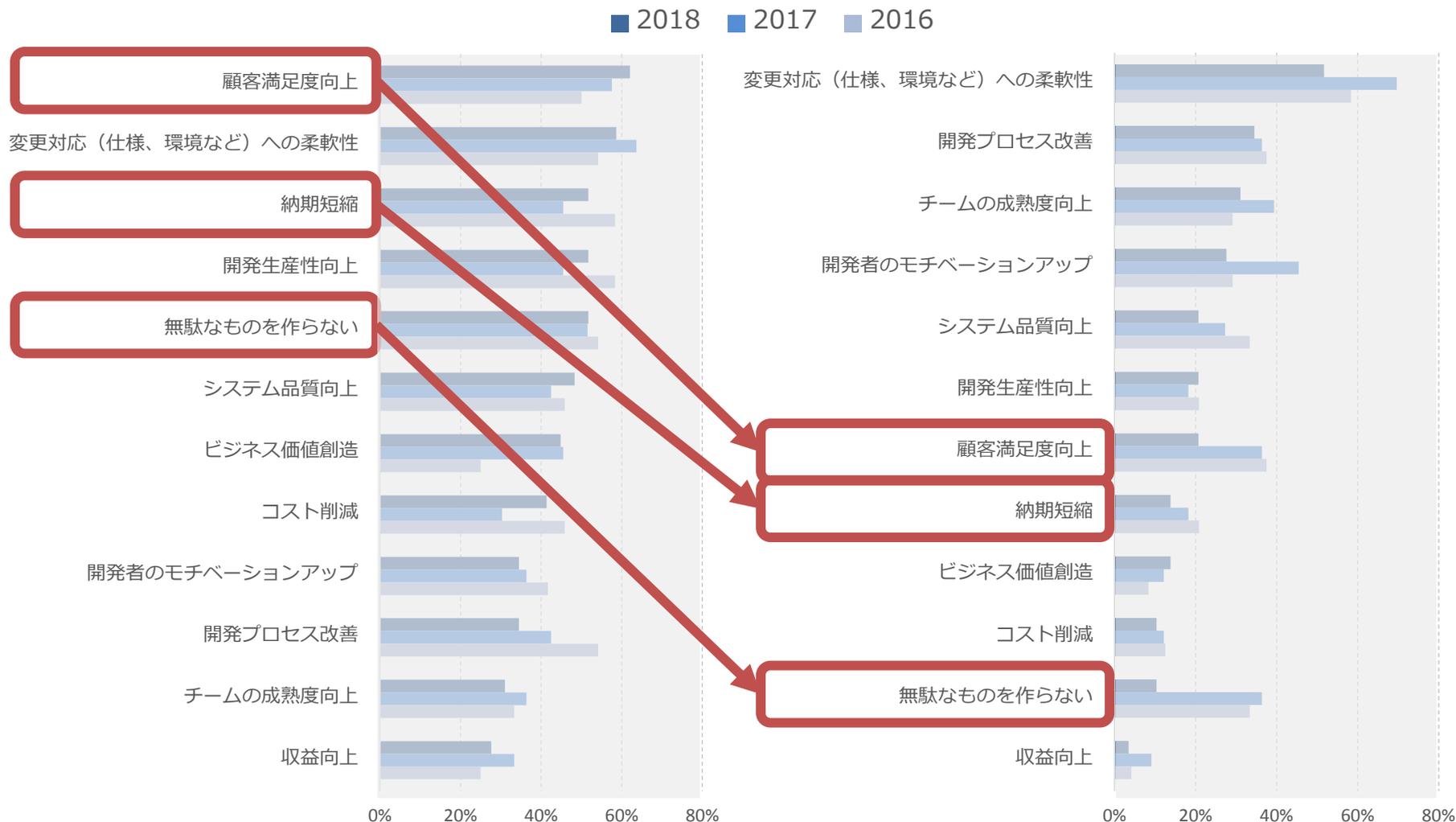
期待するもの

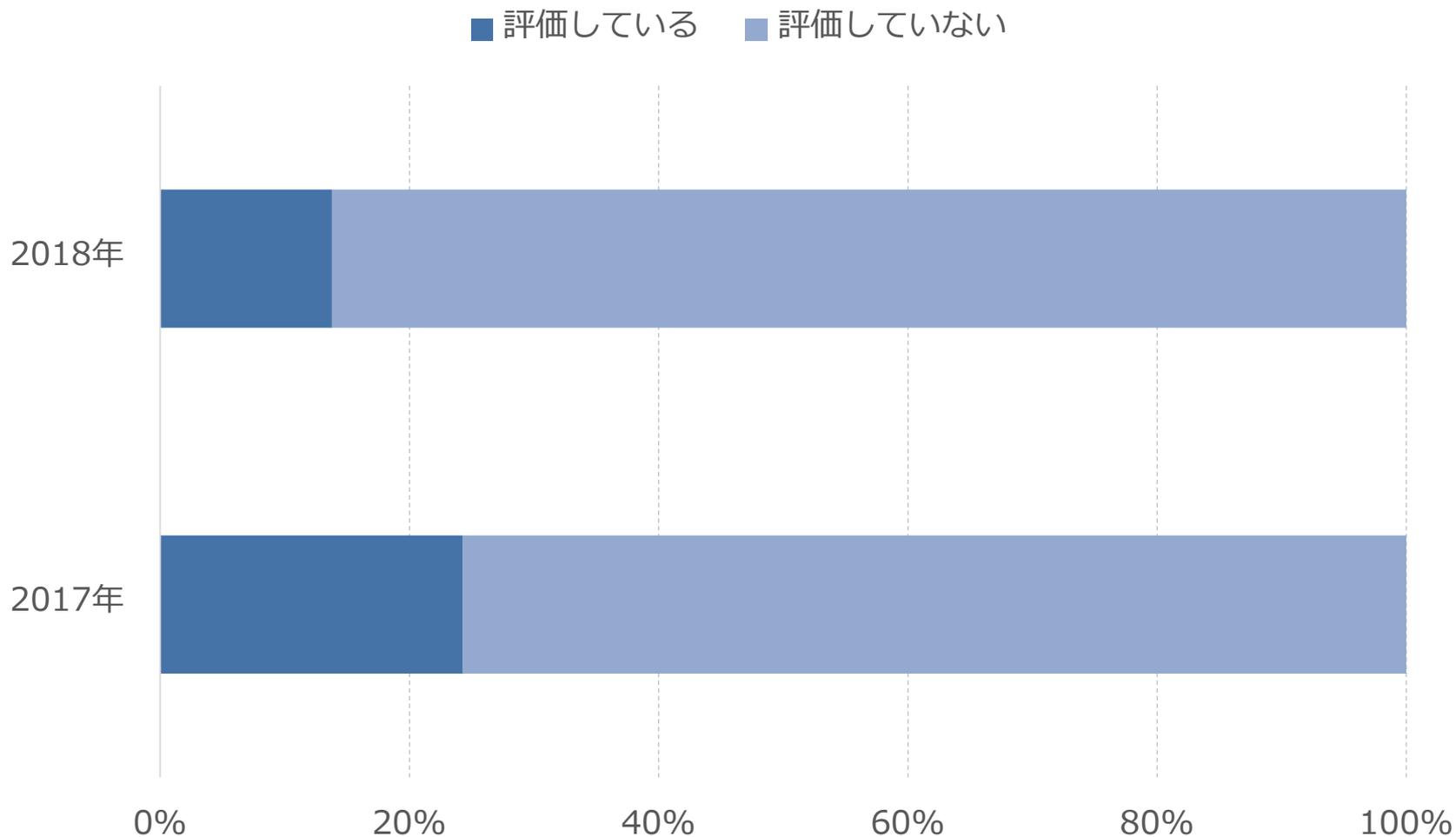
効果があったもの



期待するもの

効果があったもの



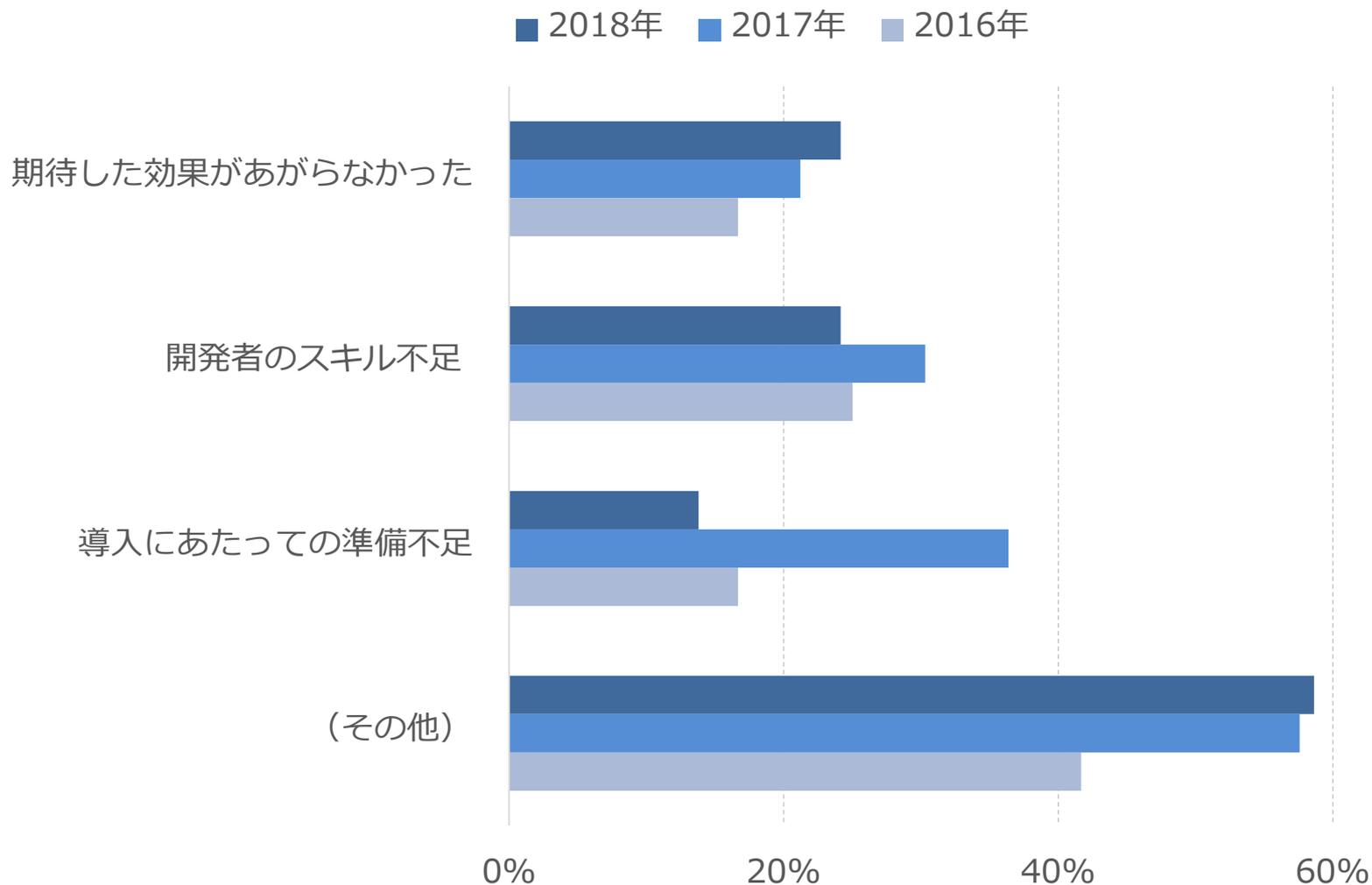


【Ⅲ－8】 ビジネス価値の評価（評価項目）

- 売上・利益（額と率）
- 利用者の評判、顧客満足度など

【Ⅲ-9】 アジャイル開発をやめた理由

複 初

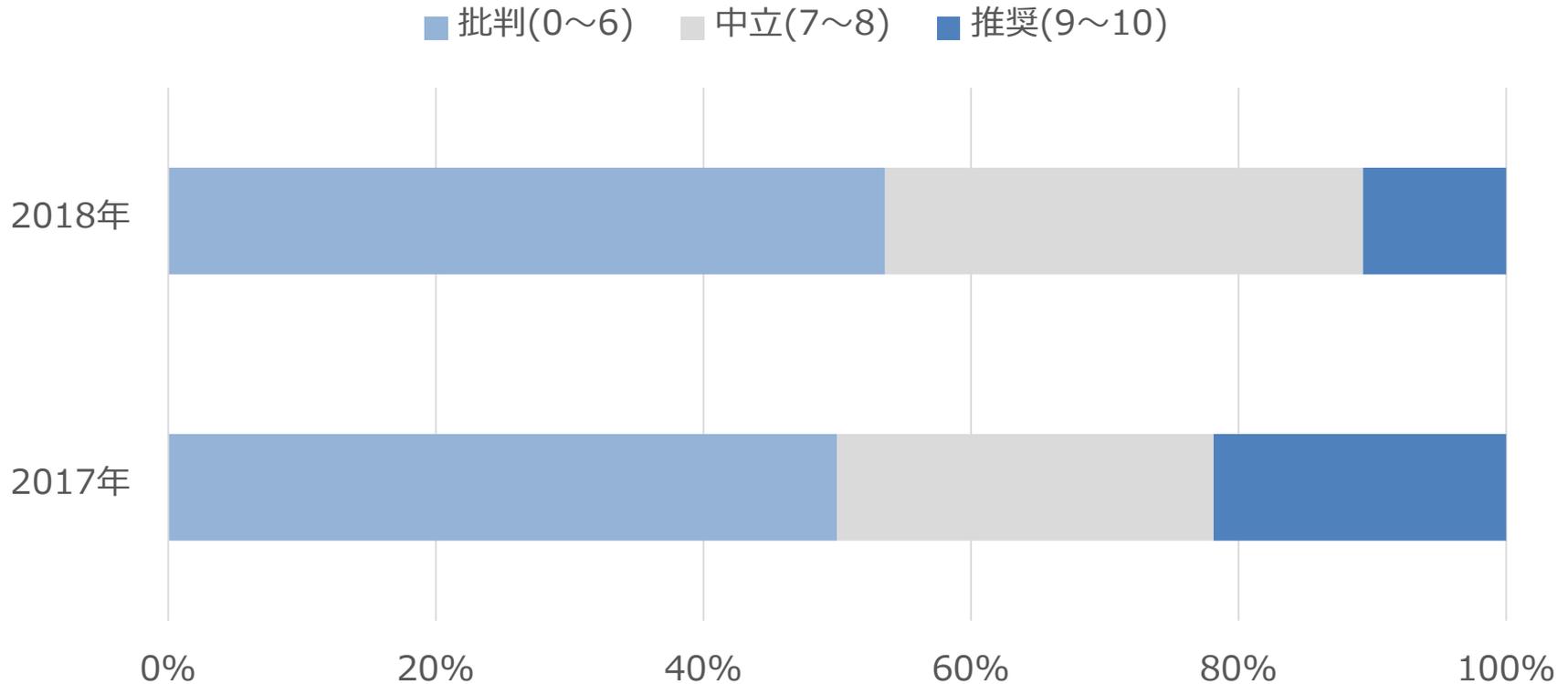


【Ⅲ-9】アジャイル開発をやめた理由（その他）

- プロジェクトが終了したため
- プロジェクトから抜けたため（別プロジェクトへの移動など、開発案件以外の仕事など）
- プロジェクト方針の変更
- オフショアで行なったため
- 推進者が他部署へ異動したため
- 作業実態がアジャイル開発にそぐわない
- お客様がアジャイルを理解していない場合、アジャイルで進める事の上承を得られないし、進めていくことも難しい
- 開発手法が決まっているPJが多く導入が困難
- 会社の制度不足

【Ⅲ－10】 アジャイル開発を薦める可能性

複 初



「0＝薦める可能性はまったくない、10＝薦める可能性は極めて高い」として薦める可能性を数値化
なお、「批判、中立、推奨」の区分けはネットプロモータースコアに準拠

参考: <https://jp.surveymonkey.com/mp/net-promoter-score-definition-formula/>

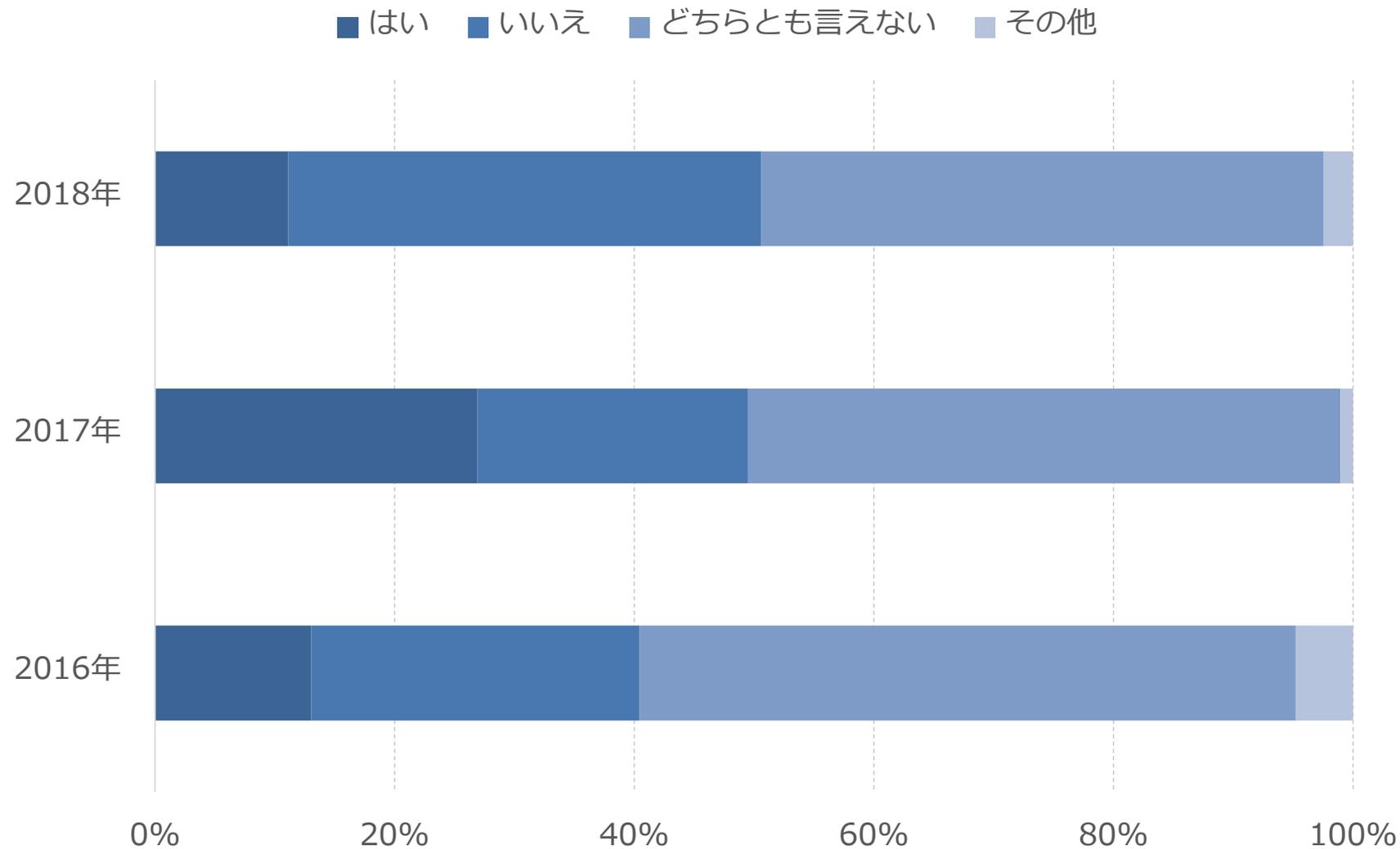
IV これまで導入したことはない、 分からない

凡例

複 複数回答の質問

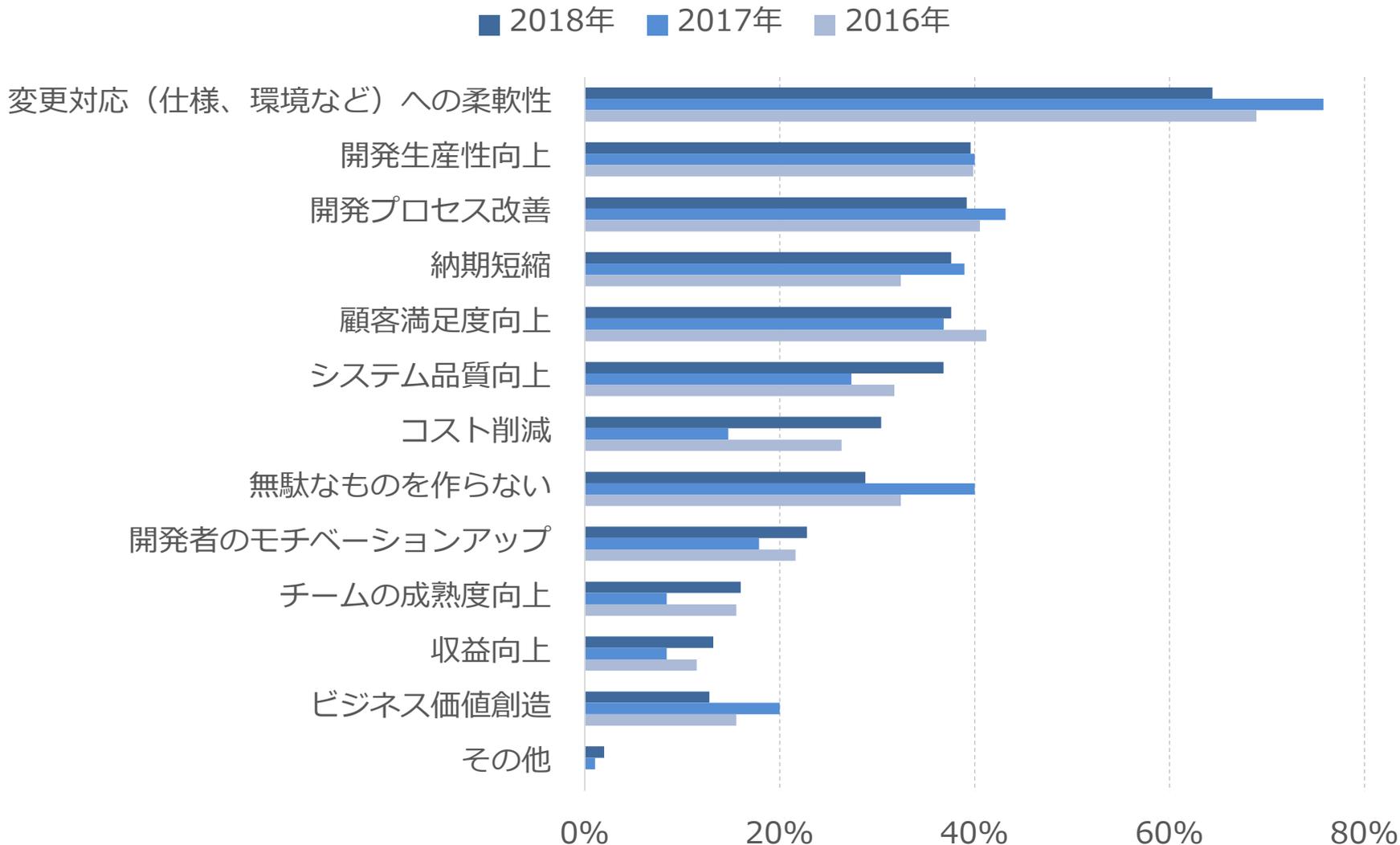
初 今年から始めた質問

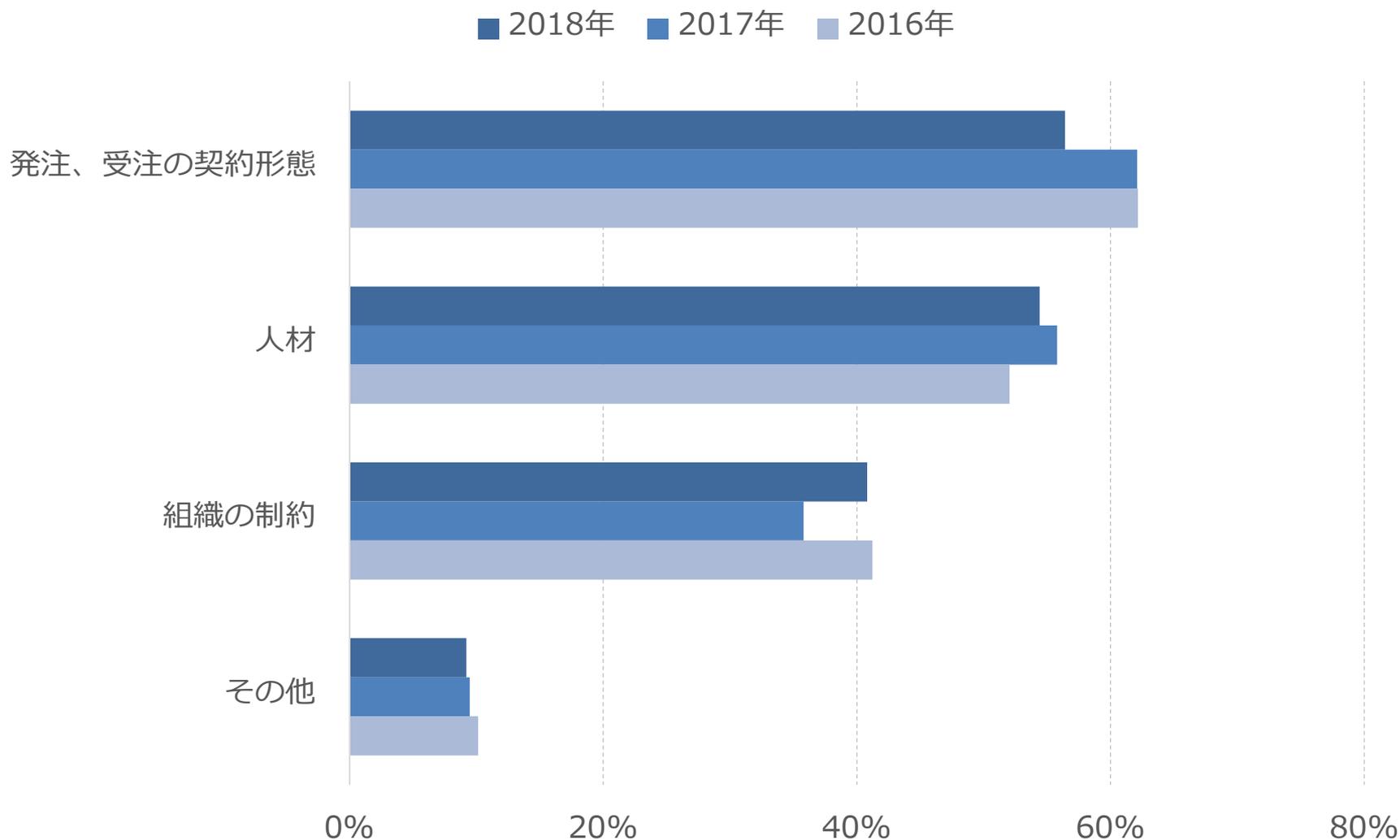
【IV-1】 アジャイル開発の導入予定



【IV-2】 アジャイル開発に期待するもの

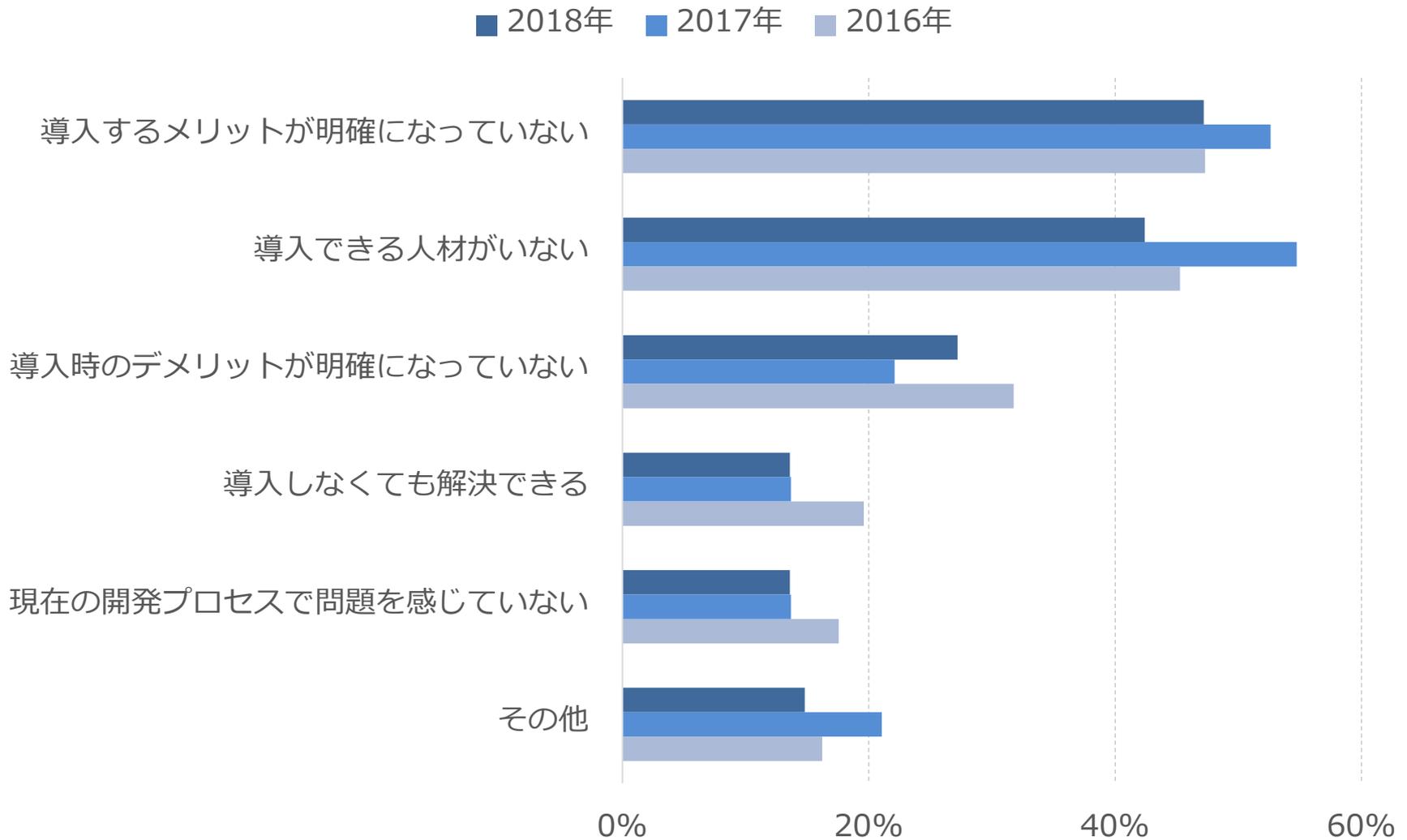
複 初





【IV-4】アジャイル開発を導入しない理由

複 初



【利用上の注意】

- 本報告書および(一社)情報サービス産業協会(以下当協会)ウェブサイトから取得したファイル(ファイルに収録された画像およびデータを含む。以下ファイル等)の著作権は、当協会が保有している。利用者は、自らの利用のために本報告書等を利用することができるが、事前の許可なく転載、複製、一部改変、頒布、譲渡、転送を行ってはならない。

— 禁 無 断 転 載 —

「情報サービス産業における
アジャイル開発に関するエンジニアへの調査」

平成31年4月発行

発行所：一般社団法人 情報サービス産業協会
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-4 S-GATE大手町北6F
TEL (03)5289-7651 FAX (03) 5289-7653
All Rights Reserved, Copyright© 2018,JISA